

第3編 学 校 別 研 究

【 目 次 】

沼 田 小 学 校	4 6
沼 田 東 小 学 校	5 0
沼 田 北 小 学 校	5 4
升 形 小 学 校	5 8
利 南 東 小 学 校	6 2
池 田 小 学 校	6 6
薄 根 小 学 校	7 0
川 田 小 学 校	7 4
白 沢 小 学 校	7 8
利 根 小 学 校	8 2
多 那 小 学 校	8 6
沼 田 中 学 校	9 0
沼 田 南 中 学 校	9 4
沼 田 西 中 学 校	9 8
沼 田 東 中 学 校	1 0 2
池 田 中 学 校	1 0 6
薄 根 中 学 校	1 1 0
白 沢 中 学 校	1 1 4
利 根 中 学 校	1 1 8
多 那 中 学 校	1 2 2
利 南 幼 稚 園	1 2 6
薄 根 幼 稚 園	1 3 0

沼 田 中 学 校

所在地 〒378-0053 沼田市東原新町1801番地1
電話番号 0278-23-1116 FAX 22-9856
校長名 富田 孝

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【美しい心 高い知性 強い身体を磨く生徒】

2 経営方針

(1) 【子どもが輝く学校】（目指す学校像）

- ・子どもが「学びたい」と思う学校
- ・保護者が「学ばせたい」と思う学校
- ・地域の方が「応援したい」と思う学校

【子どもを輝かせる教師】（目指す教師像）

- ・社会人としての優れた識見を有する教師
- ・幅広い視野をもち学び続ける教師
- ・豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教師

(2) 本年度の重点目標

『自律と尊重』 「自ら考え、判断し、行動する」こと、「違いを理解し、他者を尊重する」ことに視点をあてた教育活動の推進

3 本年度の重点施策

(1) 質の高い教育活動の推進に向けた組織的な校務運営と教職員の資質向上〔沼田市・先生の日〕〔沼田市教志塾〕

- ・主任等の指導助言、連絡調整機能の充実と、全教職員での共通理解・共通実践
- ・参観ウィークや人事評価制度、研修履歴等の活用による、職員個々の職能成長
- ・特別な配慮を必要とする生徒への意図的・組織的・計画的な指導の工夫
- ・業務改善及び部活動運営方針に基づく活動の実施による、働き方改革の推進

(2) 自他を大切に、思いやりと規範意識をもった「豊かな心」の育成〔児童生徒の命を守り、育てる指導〕〔沼田市SNSルール〕

- ・生徒の生活上の課題を踏まえた、道徳の授業改善と道徳教育の充実
- ・自ら考え行動する取組への支援と取組の価値付けによる、自己有用感・自己肯定感の醸成
- ・「凡事徹底」「脚下照顧」「知行合一」の励行と自己をみつめ生き方を考える意識の向上
- ・「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を視点とした特別活動の充実
- ・「沼田中学校SNS利用ルール」「SOSの出し方に関する教育」等による、自他を尊重し、命を守り育てる教育の充実

(3) 培う資質・能力の明確化と主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力」の育成〔わくわくスクール沼田〕

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、生徒の能力を引き出す授業実践の推進
- ・指導と評価の一体化による、生徒の実態を踏まえた指導の工夫
- ・ねらいの明確化とねらいの達成につながる学習活動（ICT機器の活用等）の工夫
- ・「きく（聞く（聴く）、訊く）」ことを重視した授業づくりの推進
- ・「読む」力の育成に向けた教育活動の充実
- ・ペアや小集団等、学習形態の工夫により、見方や考え方を深めたり、広げたりする授業実践
- ・国際交流授業等への積極的な参加を促し、国際的な視野をもつ生徒の育成に努める

(4) 特別な配慮を必要とする生徒への教育支援の充実

- ・特別支援学級に在籍する生徒へのきめ細かな支援
- ・通常学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒への指導の充実

(5) 生涯にわたって運動に親しむ基盤となる「健やかな体」の育成〔教育部活〕

- ・「体力向上プラン」を活用した、学校課題の解決に向けた取組の充実
- ・主体的に自己の体力向上や技能習得に取り組むための、保健体育の授業や体育的行事の工夫
- ・「沼田中学校部活動運営方針」に基づく教育部活動の推進
- ・健康的な生活の実践に繋がる、専門委員会活動、学校保健委員会等の実施

(6) 安全で安心な居場所づくりと、潤いのある学習環境の整備〔セーフティ沼田〕〔小中連携〕

- ・生徒の危険予測回避能力の育成と職員の危機管理・安全管理の徹底
- ・熱中症、各種感染症、食物アレルギー等に対する理解と全校体制による指導や対応の徹底
- ・健康的なこころと身体の育成に向けた生活習慣の見直し
- ・学び舎への愛着をもてるよう、温かみのある教室環境や花と緑のある校内環境の整備
- ・合同引き渡し訓練（地震想定）や不審者対応訓練の実施による、実践的な安全教育の推進

(7) 地域の次代を担う人材の育成を視野に入れた地域と学校の連携・協働〔ぬまた未来創造学〕

- ・コミュニティー・スクールの設置による地域と連携・協働した指導体制の構築
- ・「学校運営協議会（コミュニティー・スクール）」と「地域学校協働本部」との連携・協働による教育活動の推進
- ・様々な分野における地域のエキスパートや外部機関等の専門家を活用した授業の充実
- ・「ぬまた未来創造学」に基づく総合的な学習の時間の充実による郷土を愛する心の醸成

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 身に付けた資質・能力を生かして、自己の考えを表現できる生徒の育成
副主題 ～思考ツール等を効果的に活用した学び合いを通して～

生徒の実態との関わり

- ・NRTの結果から「思考・判断・表現」に課題がある。
- ・全国学力・学習調査の生徒質問用紙では「友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の質問に対して「当てはまる」と回答した割合が全国・県を下回っていた。

指導の在り方との関わり

- ・生徒の学びを助けるツールとしてのICT機器を効果的に活用する実践を積み重ねる。
- ・「根拠」を示して説明する力（論理的思考力）を高めるために、生徒自ら思考し、判断・表現する機会（対話と交流）を生み出す授業づくりを行う必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

「各教科等で学んだことを生かして、多面的・多角的な視点から自分の考えを再構築し、根拠や理由を示して、相手に分かりやすく表現できる生徒」と捉え、この生徒像に迫るために、思考を可視化し、学び合いの活動を通して、その実現を目指す。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・各教科等で「自己の考えを表現」するために必要な資質・能力を明確にする。
- ・思考スキルと思考ツールの関係を理解し、目的に合った思考ツールを使う。
- ・授業のねらいを基に適切な思考スキルを設定し、教科特性に応じた思考ツール等を用いて考える姿が見える授業づくりをする。
- ・話し合いの視点をもって自己の考えを伝え合う機会や場面を意図的に設定し、実践を積み重ねていく。
- ・学び合い活動の質的向上を図るために、思考ツール等の有効な活用の手立てを全体で共有する。
- ・「参観ウィーク」を計画的に実施し、教師同士の学び合いを行い高め合っていく。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・授業者が、適切な思考ツールを用いて、生徒に自己の考えを整理させたことで、授業のねらいや課題に沿った話し合いが行われ、主体的に活動に取り組むことができた。
- ・各授業において、生徒が自己の考えを表現する場を意図的・継続的に設定したことで、自己の考えをただ伝えるだけでなく、根拠や理由を示して伝えることができる生徒が多くなった。
- ・授業者の授業を組み立てる力や生徒の学びをコーディネートする力が向上した。

○課題

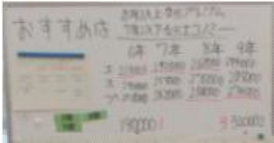
- ・対話や交流を通して自己の考えを伝えられる生徒は多くなったが、自己の考えを深めたり、他者との合意形成を図り、よりよい意見を構築したりできるような生徒は少ない。
- ・学び合い活動での「きく（聞く・聴く・訊く）力」が弱い。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・各教科における思考ツール等の効果的な活用を全体で共有すると共に、生徒が考えを深めたり、他者との合意形成を図り、よりよい意見を再構築したりできるような学び合いの有効な手立てを確認できるよう、実践を積み重ねていく。

3 研修計画・経過報告

月 日	研修計画[内容]	経過報告[○研修の視点 →思考ツール]
4 / 8 (月) 全体会①	本年度の研修計画の検討	○研修主題、研修内容の検討 ○各教科努力点等の検討
5 / 27 (月) 全体会②	研修内容の共通理解	○研修内容・方法等の検討 ○授業計画の立案
6 / 3 (月) 全体会③	一人一授業について	○一人一授業指導案形式の検討
6 / 17 (月)	指導主事訪問 A	○個別の授業改善の視点の検証
6 / 6 (木) 授業・研究会	1 年理科 鈴木元教諭 「動物の分類」	○比較・分類する → X チャート、ベン図
6 / 21 (金) 授業・研究会	3 年技術 瀧澤教諭 「計測・制御」	○物事の手順や工程を表す → アクティビティ図
6 / 24 (月) 全体会④	研修の方向性の確認 メンター研修	○A 訪問後の研修の方法の確認・修正
7 / 16 (火) 授業・研究会	3 年国語 櫻井教諭 「批判的に読む、間の文化」	○多面的に見る、それぞれの立場の意見を整理する → バタフライチャート
7 / 8 (月) 全体会⑤	教科別に授業実践の見直し	○指導要領について、思考ツールを介して読み直す
8 / 27 (火) 全体会⑥	2 学期の計画の確認	○授業計画の確認 ○教科部会ごとの授業構想
9 / 24 (火) 全体会⑦	指導主事訪問 B の指導案検討会	○指導案に基づく授業改善策の検討
9 / 27 (金) 授業・研究会	指導主事 B' 訪問 3 年音楽 清水教諭 「合唱」 	○知覚・感受したことを整理する → 楽譜 (ウェビングマップ) ・視点をもちあわせて話し合いをさせたことで、自分たちの表現を考えやすくなり、生徒同士の対話が活発になった。教師がコーディネート役となっていた。 ・グループ間交流をすることで自分たちにはない視点に気づき、交流後に自分のグループの考えを再考することでさらに考えがよいものになった。 ▼グループの表現を試しに歌う時間を設けると歌う時間の確保ができた。
9 / 27 (金) 授業・研究会	3 年数学 鈴木英教諭 「関数」	○理由を考え、考察する → 式・表・グラフ (大型ホワイトボード)
9 / 30 (月) 全体会⑧	救急救命法講習 中央消防署	○心肺蘇生法
10 / 4 (金) 授業・研究会	2 年数学 遠山教諭 「1 次関数」	変化の様子や特徴を調べ、整理する → 式・表・グラフ (大型ホワイトボード)
10 / 4 (金) 授業・研究会	3 年英語 深井教諭 「Program 4」	○関連付ける → データチャート
10 / 7 (月) 全体会⑨	指導主事訪問 B の指導案検討会	○授業展開の検討 (学び合い学習について) ○思考ツール等の活用の検討
10 / 8 (火) 授業・研究会	3 年理科 吉川教諭 「物体の運動」	○予想し、比較、検討する → グラフ罫、ホワイトボード
10 / 10 (木) 授業・研究会	2 年理科 林教諭 「動物のからだのつくりとはたらき」	○共通点・相違点を見いだす → ベン図
10 / 16 (水) 授業・研究会	1 年英語 坂本教諭 「Program 5」	○自分の表現したいことを整理しまとめる → ウェビングマップ
10 / 23 (水) 授業・研究会	2 年家庭科 阿部教諭 「住まいのはたらきとこちよさ」	○順位付ける、理由付ける → ピラミッド・チャート、間取り図

10/23(水)	指導主事訪問B訪問 1年数学 生方教諭 「比例と反比例」	○理由を考え、考察する →式・表・グラフ(大型ホワイトボード)
  ・身近な課題設定で、生徒は意欲的に取り組んでいた。また、既習事項の確認があり、課題解決の見通しをもって活動に取り組めた。 ・学び合い活動の中で、教師がコーディネートしてグループに声かけや助言をしたことで、生徒の考えが広がったり、深まったりして協働的な学び合いが見られた。ただ、発言力のある生徒に流されている班もみられたので、個の考えも大切にしたい学び合いができるとよかった。 ・グループ同士の交流場面では、説明の根拠となる、式、表、グラフがあったことで、思考が深まっている姿が見られた。また、発表者が繰り返し発表できたことや友達の質問に回答したことで、生徒の思考も整理されていた。新たな気づきが生まれた生徒や適切な答えを導いた生徒が見られ、自分たちの意見が深い理解へと繋がっていた。 ▼振り返りで、比例やグラフのよさなどを実感できると、さらによかった。		
11/5(火) 全体会⑩	講演 講師 利根教育事務所 青木指導主事、関谷指導主事	「させる授業」から「する授業」へ ー非認知能力育成の視点からー
11/22(金) 授業・研究会	1年体育 篠崎教諭 「球技(サッカー)」	○関連付ける、見通す、具体化する →作戦ボード
11/26(火) 授業・研究会	2年国語 荒木教諭 「振り返って見つめる 走れメロス」	○比較、相違点と共通点を見付け整理する →ベン図
11/29(金) 授業・研究会	2年社会 藤谷教諭 「日本の諸地域(東北地方)」	○地域的特色の把握と情報を分類する →ウェビング、ベン図
12/2(月) 全体会⑪	B訪問後の成果と課題の確認 研修のまとめ方について	○一人一授業の成果と課題 ○本校生徒の実態と課題について共通理解
12/5(木) 授業・研究会	年美術 福島教諭 「気持ちを描く」	○様々な要素から一つの要素を導き出す →統合化チャート
	1年国語 友松教諭 「トロッコ」	○分析する →情報分析チャート
12/6(金) 授業・研究会	年体育 田村教諭 「ダンス」	○振り付けを具体化する、比較する →イメージマップ、隊形移動ツール(ロイポート)
12/11(水) 授業・研究会	2年英語 飯野教諭 「Program 7」	○自分の言いたいことを整理する →クラゲチャート
12/18(水) 授業・研究会	3年社会 田邊教諭 「私たちの暮らしと経済」	○多面的・多角的に見る →マトリックス
1/9(火) 全体会⑫	実践のまとめ メンター研修	○研修の成果、課題の把握 ○思考ツール活用場面の整理
2/5(月) 全体会⑬	研修の評価と反省 次年度構想	○研修のまとめと次年度の研究内容の検討

<職員一覧>

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	富田 孝	教 諭	生方裕一郎	教 諭	遠山 莉菜	スクールソーシャルワーカー	板坂まち子
教 頭	本多 章浩	〃	林 拓磨	〃	友松 祐佳	心の教室相談員	下田 高男
教 諭	吉川 陽子	〃	荒木 崇史	〃	小尾 悦子	学校教育支援員	林 佐一郎
〃	篠崎 真理	〃	鈴木 元気	〃	阿部 澄子	〃	萩原ちづる
〃	飯野 智	〃	鈴木 英樹	〃	坂本 望	〃	松井 彩
〃	大竹 訓子	〃	藤谷 直道	養護教諭	真船由美子	主任用務員	原田 徳樹
〃	福島 栄典	〃	深井 優介	統括補佐事務長	森下 直樹	初任研後補充	高橋千賀子
〃	瀧澤 裕志	〃	櫻井 陽希	事務主事	井上 美里	非常勤講師	阿部 亮一
〃	田邊 真司	〃	田村 健介	スクールカウンセラー	阿左見康成	学校事務補助	宮澤祐里奈
〃	伊藤 容子	〃	清水 健伯				

沼 田 南 中 学 校

所在地 〒378-0015 沼田市戸鹿野町726番地
電話番号 0278-23-5557 FAX 22-9857
校長名 田村 学

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 〈基本目標〉 人間尊重の精神を基盤に、地域や国際社会に生きる自覚を高め、心豊かで逞しく
活力ある生徒を育成する。
- 〈具体目標〉 「英知」・・・知性を磨き、創意を生かして考える生徒
「礼節」・・・秩序を守り、感謝と思いやりをもつ生徒
「強健」・・・心身を鍛え、明るく活動する逞しい生徒
- 〈経営目標〉 自己有用感を高める教育活動の推進・充実

2 経営方針

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上
- (4) 生徒指導・特別支援教育の充実
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育・進路指導の充実
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善

3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実【わくわくクール沼田】【家族で本を読みましょう】
 - ・学習指導要領に基づく確実な教育課程の編成、実施、評価、改善
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進及びカリキュラムマネジメントの充実
 - ・育成すべき資質・能力を明確にした内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想
 - ・単位時間における「めあて」「見通し」「学び合い」「振り返り」「評価項目」を意識した各教科の「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実
 - ・丁寧な教材研究や互いの授業を見合う授業研究等による教師力の向上
 - ・授業と放課後学習・自主学習と関連付けた学びのサイクルの充実
 - ・各教科等の目標に迫る1人1台端末等のICT環境を効果的に活用した学習指導の工夫
 - ・長期休業を利用した補充学習の実施
 - ・読書活動の充実とそれを支える図書室の環境整備及び家庭での読書推奨
 - ・読書活動の充実とそれを支える図書室の環境整備及び家庭での読書推奨
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実【児童生徒の命を守り育てる教育、教育部活】
 - ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実及び全教育活動を通した豊かな心と実践力の育成
 - ・「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫
 - ・挨拶・返事・礼儀等の基本的生活習慣の充実
 - ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用）
 - ・目標に向かって自主的・主体的に粘り強く取り組む生徒を育成するための教育部活動の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上【セーフティ沼田】
 - ・学校保健委員会を中心とした心の健康、食育の推進及び感染症対策の徹底
 - ・体力向上プランを踏まえた教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上
 - ・生徒の危険予測・危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進
- (4) 生徒指導態勢・特別支援教育の充実【沼田市SNSルール】
 - ・生徒指導・教育相談委員会を核にした迅速な情報共有による組織的・計画的な生徒指導態勢の推進
 - ・「よさを認め、励ます」場面を意図的に設定することによる「自己有用感」「自己肯定感」の高揚
 - ・いじめ事案に対する法に基づく適切な対応及び不登校支援も含めた未然防止、組織的・計画的な対応の充実
 - ・SNSルールの活用を中心とした情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進
 - ・「個別の教育支援計画・指導計画」を基にした「合理的配慮」を意識した教科指導の推進
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育の充実【ぬまた未来創造学】【小中連携】
 - ・学校・学年・学級だよりやホームページ、H&Sによる情報提供の充実
 - ・家庭と連携した挨拶、早寝早起き、家庭学習等の生活・学習習慣の確立
 - ・地域の理解や地域素材を活用した「ぬまた未来創造学」の推進
 - ・学校と家庭、地域が連携・協働した教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用
 - ・小中連携による各教科等の学びの連続性を意識した教育課程編成の推進
 - ・キャリアパスポートを活用した自分の生き方を見つめ、夢や希望を育むキャリア教育の推進
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善
 - ・信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保
 - ・報告・連絡・相談のしやすい風通しのよい職場作りの推進と教職員間の協力体制の強化
 - ・勤務時間の適正な記録の徹底と廃止・縮小・ICT化の視点での業務改善の推進
 - ・適正な部活動の運営及び休日の部活動の段階的な地域移行の推進に向けた検討

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 主体的に学び合い、追究できる生徒の育成

副主題 課題追究型の学習活動の工夫を通して

生徒の実態との関わり

- ・ICTを使うことで、考えを深める学び合いの時間を十分確保することができた。また、ICTで意見の比較などをすることで、より自分の考えを見直せるようになった。
- ・全体としての学び合いは活発に行われていたが、先を見通して主体的に疑問をもったり、考えたりする姿は少なかった。

指導の在り方との関わり

- ・教科の「見方・考え方」を明確にして授業展開を考えることで、生徒も学び合いの中で考えを深めることができていた。
- ・一人一人がより主体的に活動できるようにするために、自分達で課題を見だし、協働的な学習の中で課題を解決していくことができるような授業展開の工夫を行っていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具現化した目指す生徒像

自分達で考えた課題を追究できるよう、見通しをもって活動を行い、学び合いの中で課題を解決していくことができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・課題追究型の授業実践を全員で行い、学年を中心に参観し合うことで研修を深める。また、授業の様子を録画することで、いつでも参観できるようにする。
- ・校内研修の中で、研究所で行っている活動から得た内容を紹介するなどして、ぬまた未来創造学についての考えを取り入れていく。
- ・校内研修の中で、先進校の取り組みを紹介し、授業改善に取り入れていく。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・生徒が主体的に追究できるように、より必要性のある課題を考えることができるようになった。
- ・話し合いの中で考えを深めていけるようにするために、考える視点を示したり、ヒントカードを渡したりなどの具体的な手立てを考えることができた。
- ・授業公開を2クラスそれぞれ行うことで、より参観しやすくなることできた。

○課題

- ・グループ活動で話し合った内容を全体で交流させるとき、意見が広がりすぎてしまうことがあったので、活動をしばったりすることで、考える視点を与える手立ても必要だと感じた。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・今後の授業実践の中で、意見の交流のさせ方について研修を重ねていく。
- ・ICTを活用することで、いろいろな意見を比較させながら交流できる方法などを考えていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月 日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 4 (推進委員会)	・ 昨年度までの研修経過の確認 ・ 研修主題、課題、内容、計画の決定	○前年度の反省・課題の確認と今年度の方向性の話合い ・ 昨年度からテーマを変えて課題追究についての研修を進める。
4.15 4.30 5.13	・ 研修主題、課題、内容、計画の共通理解 ・ 指導主事訪問Aに向けて (指導の様式等) ・ 授業公開の計画	○研修のテーマについて見直す ・ 課題追究するためには、生徒が課題を見つけていく必要がある。
5.16	・ 指導主事訪問A	○校内研修の進め方について見直す ・ 具体的な共通の手立てを考える。
6.17	・ N R T 分析 ・ 一人一授業の実践に向けて ・ 指導主事訪問Aの反省	○生徒主体の課題追究にするためにはどうすればよいか ・ 必要性のある課題を提示し、協働の中で考えを深められる手立てを工夫し、実践していく。
6 月 ~11 月 随時	・ 授業公開 (参観) 授 ・ 参観した教諭の感想を基にした振り返り	○研修主題に向けた手立てが実践できているか ・ 生徒が主体的に取り組む様子が見られ、課題追究型の学習になっていた。 ・ 課題追究する中で、生徒の意見が広がったときに全体としてのまとまりがなくなってしまう様子も見られた。 ・ 動画を視聴させることで SDG s との関連を意識付けながら学習活動をより深めることができた。 ・ 本時のめあてでもある「問い」に対し、授業後も考え続ける生徒が複数おり、本時の学びを形にしようとする生徒の意欲を引き出すことができた。 ・ 一人では課題解決が難しいが、ペアでなら考えられるという生徒が多く、ペアで「協働」する必然性のある活動となっていた。
8.27	・ 職員研修 (学校評価アンケート分析①)	○分析と考察 ・ 校内研修については、計画に進めることができているとの確認ができた。
9. 2 9.30 10. 7	・ 指導案検討会 指	○研修主題を実践できる授業になっているか検討する ・ 授業での手立てについて職員で実際に行うことで有効な手立てをしぼることができた。 ・ 授業のねらいに迫れるよう、生徒の活動を見直すことができた。
10.18 11.11	・ 指導主事訪問B 授 男沢教諭 3年生美術 ・ 指導指示訪問Bの振り返り	○校内研修で検討した手立てが有効であったか確認する。 ・ 生徒が主体的に活動できるよう、生徒にとって必要感があり自分事として捉えられるような課題や学習活動を設定することが大切である。 ・ 本時教師は生徒の中をよく回り、生徒の交流している声を聞き、よく声かけをしていた。教師が視点を持ち声かけをしたことで、生徒の美術の学びがつながった。 ・ 授業づくりでは、授業のゴールでねらいを達成した子どもの姿を具体化し、活動の中で「自己決定」「対話・交流」「試行錯誤」の場面を適切に設定したり、I C T 機器を目的に合わせて使用したりすることが鍵となる。

12. 9	・研修のまとめ (研究紀要についての確認)	・研修の反省と課題・分析と考察
1.20	・学校評価アンケート分析②	・本年度の成果と課題
2.17 3.10	・紀要「潯標」完成、次年度の計画 ・次年度の確認	○次年度の方向性について

※資質向上研修

月日	区 分	講 師	内 容
4.5 8.27	・特別支援研修	特別支援コーディネーター	・支援を必要とする生徒の特徴について理解し、どのように対応するとよいのか考えた。
7.16	・服務規律研修	福島指導主事 養護教諭、事務	・服務規律研修にどのように取り組むとよいのかを学び、養護教諭、事務職員を中心に自分事として過去の事例を考えた。
9.4	・学校侵入者対応訓練	スクールサポーター 茂木 哲由	・不審者が侵入した来たときの職員の対応の仕方について、実演を行い、見直した。
11.25	・救急救命法講習 ・エピペン講習会	利根沼田消防本部	・心肺蘇生法を学び、AEDを正しく使えるように全員で練習をした。 ・アレルギー対応について学び、緊急時のエピペンの使い方を確認した。
11.18 11.25 1.20	・服務規律研修	各学年教諭	・各学年教諭を中心に、服務規律について身近な例を挙げながら、どのように行動していくべきか話し合いを行った。

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	田 村 学	教 諭	加 古 孝
教 頭	上 原 昌 弘	〃	萩 原 彩 水
教 諭	吉 川 洋 之	養 護 教 諭	金 子 芽 生
〃	内 田 淳	事 務 主 任	片 野 恵
〃	平 井 美千代	教 諭 (学校間連携)	瀧 澤 裕 志
〃	津久井 仁 美	初任研後補充	森 峰 子
〃	男 沢 紗 代	拠点校指導員	下 田 洋 一
〃	松 井 恒 俊	支 援 員	林 祥 子
〃	本 多 真 美	〃	小 野 綾 希
〃	藤 倉 寛 明	〃	高 橋 泰 子
〃	小 嶋 博 子	用 務 員	工 藤 信 悦
〃	綿 貫 諒 太	事 務 補 助 員	萩 野 慎 也
〃	角 田 人 基	心 の 相 談 員	有 坂 由 紀 子
〃	樋 口 建 斗	ス ー ル カ ウ ン セ ラ ー	相 原 英 子
〃	大 関 孝 行	ス ー ル ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	松 岡 一 明
教 諭 (学校間連携)	本 田 祐 子	部活動指導員	中 島 務

沼 田 西 中 学 校

所在地 〒378-0031 沼田市薄根町3580番地
電話番号 0278-22-3055 FAX 0278-22-9858
校長名 中島 潔

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【学校教育目標】「高い知性、温かい心、たくましい体をもつ生徒の育成」
《目指す生徒像》○向学…自ら学ぶ生徒 ○礼節…思いやりのある生徒 ○進取…挑戦する生徒
《目指す学校像》…生徒が心から「通いたい」と思える開かれた学校
《目指す教師像》…熱意、誠意、愛情のあふれる教師

2 経営方針

- (1) 主任等のリーダーシップによる機能の充実と情報共有に基づく組織的対応の推進
- (2) 多面的・総合的な生徒理解と生徒指導実践上の4つの視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を生かした教育活動の推進
- (3) 本年度の重点目標に向けた組織的な取組を通じた非認知能力の育成
- (4) コミュニティ・スクールの仕組みを生かした、保護者や地域と一体となった特色ある学校づくりの推進
- (5) 安全・安心な教育活動を基盤とする信頼される学校づくりの推進
- (6) 職員一人一人のよさを生かした学校経営の充実と風通しのよい職場づくりの推進

3 本年度の重点施策

【本年度の重点目標】「主体性と支え合いの発揮 ～ やる気・勇気・根気 3つの基本姿勢 ～ 」
・やる気…先の見通しを立て自ら取り組むこと ・勇気…正しい判断と思いやりの心をもつこと ・根気…目標達成に向け諦めずに粘り強く取り組むこと

- (1) 「高い知性」の育成【振り返り学習】【沼田市・先生の日】
 - ① 西中「授業のスタンダード」に基づく、「主体的・対話的で深い学び」を実現する組織的な授業実践の推進（めあての提示・振り返り活動の設定）
 - ② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための適切な学習活動設定の工夫（学習課題の工夫、特配によるきめ細かな指導、ICTの活用）
 - ③ 読解力向上のための「よむYOMUワークシート」の計画的な活用と積み上げ
 - ④ 「家庭学習の手引き」に基づく、各教科担当や家庭と連携した家庭学習充実のための取組の推進
 - ⑤ 生徒一人一人の実態把握に基づく、個に応じた支援体制の確立（特別支援教育の推進）
- (2) 「温かい心」の育成【ぬまた未来創造学】
 - ① 道徳的な価値を自分との関わりで深められるような、多面的・多角的に考えられる交流場面などを設定した「考え議論する」道徳科授業の推進
 - ② お互いを大切にする指導や教室環境・言語環境の整備を通じた温かい雰囲気づくりなどの常時指導を基盤とした自他を大切にする人権教育の推進
 - ③ 「時を守り、場を清め、礼を正す」など基本的生活習慣の充実を図る日常的・継続的・組織的な指導の推進（挨拶、返事、話を聞く態度）
 - ④ 「ぬまた未来創造学」に基づく、地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心の育成
 - ⑤ 生徒会活動を中核とした生徒主体のいじめ防止活動の推進といじめの早期発見・対応できる体制の構築
 - ⑥ SCやSSWと連携した教育相談体制の整備と心の教育の推進
- (3) 「たくましい体」の育成【教育部活】【生徒の命を守り、育てる教育】
 - ① 「体力向上プラン」に基づく教科体育を核とした運動の能力・意欲の向上を図る取組の促進
 - ② 「心・技・体」の調和、生徒の主体的な取組や礼儀等の人間の成長を重視した教育部活の実践
 - ③ 全教育活動を通じた命を大切にする態度と健康で健全な心身の育成
 - ④ 生徒会専門委員会や学校保健委員会を活用した望ましい生活習慣を図るための取組と健康管理の推進
- (4) 安全で安心な環境整備【セイフティ沼田】【幼小中連携・一貫教育】
 - ① 学校安全マニュアルに基づく実効性のある避難訓練や職員研修を通じた安全管理・危機管理の充実
 - ② 地域の人的・物的資源の積極的な活用など家庭・地域との連携・協働による教育活動の推進
 - ③ 食物アレルギーや感染症対策等に関する全教職員の共通理解と協働体制の充実
 - ④ 小学校と連携した規律正しい生活習慣の確立等による生徒の健康安全の増進
- (5) 高い専門性を活かした愛情あふれる指導の推進【提案型・課題解決型の職員集団の構築】
 - ① 確認（職員が考え、管理職が承認）・連絡（情報の共有）・報告（進捗状況の管理職への報告）
【確連報】の流れを踏まえた、職員の自主性と当事者意識をもった業務の推進と改善
 - ② 人事評価制度、各種研修、同僚性を活用した教職員の職能成長・指導力向上を図る取組の推進
 - ③ 多忙化解消に向けた業務改善・意識改革の推進と部活動の適正な運営及び地域展開に向けた準備
 - ④ 困ったときに弱音を吐いたり、頼ったり、相談したりできる生徒と教職員との信頼関係の構築と全ての生徒の成長を支える日常的な教職員による生徒の積極的な認知や賞賛などの働きかけ

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～	
主 題	自己の考えを深め、表現できる生徒の育成
副主題	各教科における思考の共有と整理を取り入れた活動を通して

生徒の実態との関わり

- ・生徒の思考が活動のねらいから外れてしまったり、考えの深まりが見られなかったりする様子があったので、教科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせながら考える力を、さらに伸ばす必要がある。
- ・自分の考えをまとめたり再構築したりするのに時間がかかったり、まとめ方が分からなかったりする生徒が見られたので、それらを表現する力をさらに伸ばす必要がある。

指導の在り方との関わり

- ・グループ交流を共通実践の1つとしていたが、効果的・効率的でなかった部分も見られたので、ねらいに応じて交流活動を柔軟に設定していく必要がある。
- ・思考をさらに深め表現させるために、生徒個々にしっかりと考えをもたせ、他者の考えと関連付けて考えられるよう思考を可視化できる方法を用いて、思考を共有したり整理したりすることが有効だと考える。
- ・生徒が自分の考えを再構築できるようタイムマネジメントをしていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・各教科の特性に応じた方法で、自他の考えを視覚化により共有し、比較・分類などの整理を通して、自分の考えを広げ深め、表現することができる生徒

(2) 共通実践する手立て

- ・思考の共有と整理の過程で、各教師や教科ごとに、効果的に思考を可視化する方法を取り入れる。思考の提示方法は、ICTをはじめ、付箋等を使って分類する方法も含めて効果的だと考えられるものを工夫する。思考の共有と整理の順番は、逆になったり、繰り返したり、同時進行したりするなど様々なパターンがあり得る。
- ・授業構想シートを活用した授業づくりにより、共通実践する手立ての具体化を図るとともに、交流の形態や目的・観点を明確にして、思考の共有と整理をする学び合いができるようにする。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・思考を可視化し、共有や整理を行うことで生徒自身も自分の意見を言語化し、表現できるようになってきた。
- ・教師が思考の可視化の仕方や、思考ツールの活用法についてより多くの方法を考えることができています。その中で課題設定の工夫や教材の工夫、活動の必要感をもたせるための工夫など、より充実した授業方法を模索できた。

○課題

- ・思考を可視化し、共有することは出来たが、その可視化したものから更に考えを広げたり、深めたりするという段階までには至らないことがあった。
- ・思考を可視化する作業に時間を取られてしまい、授業時間が足りなくなってしまうことがあった。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・各授業のねらいに迫るため、授業内で思考の比較・分類などの整理をした後に、更に生徒へ問い返す活動の工夫を取り入れていく。

3 研修計画・経過報告 指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]		経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.22	全体会(第1回) ・研修主題、研修の方向性 ・研修計画、共通実践する手立て ・A 訪問について		○研修主題・研修内容・研修組織等について ・研修主題「自己の考えを深め、表現できる生徒の育成」副主題「各教科における思考の共有と整理を取り入れた活動を通して」に決定
5.13	指導主事訪問 A		○研修を充実させるために重要なことについて ・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
6.10	全体会(第2回) ・研修内容の確認		・情報交換及び、指導主事訪問 A での指導・助言を受けて、今後の研修内容の確認
7.8	全体会(第3回) 指教育水準に向け、指導案検討①		・授業を想定している単元と大まかな授業内容を確認
7.16	2年 英語	授小林利香教諭 「Program 3 Taste of Culture」	○文章構成シートを用いた意見の共有 ・文章構成シートに書くべきことが明確にされていたので、スムーズに文章につなげられていた。また、それをグループで見合うことで、友だちから表現を教わったり他の言い方を考えたりできていた。
7.17	2年 技術	授井上治男教諭 「エネルギー変換の技術」	○ジグソー形式の二段階グループ活動 ・ジグソー形式の班活動により、個の考えの明確化と提示へ向けた準備、意見交換や個人の思考に結びつく記録など、活発な意見交換ができた。
7.18	3年 社会	授春日大教諭 「人権と共生社会」	○思考ツール(Yチャート)を使った思考の分類 ・学び合いに思考ツールが必要なのか、思考を深める過程に思考ツールが必要なのか、どの場面に設定するのか検討する重要性に気付くための授業となった。
9.12	2年 国語	授岡田秀久教諭 「私の枕草子」	○思考ツールを用いて交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・「広げ、深める思考」を可視化するために、交流後の付箋を色分けして貼る工夫をしたことにより、思考の様子が一目で分かるようになった。
9.19	1年 国語	授見城由昭教諭 「構成を工夫して魅力を伝える」	○ロイロの共有ノートを使い自分の考えの中心部分を明確にする。 ・ロイロノートを活用した活動を通して、生徒は思考を働かせることができた。シートの変容を見ることで思考の流れを見ることができた。
9.19	2年 音楽	授新井智子教諭 「曲想と音楽の構造との関わり」	○ワークシートを用いて周りの考えを取り入れる。 ・友達の意見を聞くことで考え直す機会になり、深まることにつながった。
9.30	指教育水準に向け、指導案検討②		○指導案に基づく授業改善策の検討
10.21	全体会(第4回) ・教育水準実施方法 指教育水準に向け、指導案検討③		○指導案に基づく授業改善策の検討
10.31	3年 道徳	授吉野智彰教諭 「領民を愛した名君 上杉鷹山」	○思考ツール(Xチャート)を使いグループ内で意見を共有する ・思考ツール(Xチャート)を使って、それぞれの立場で改革について考え、意見を交流させたことは話し合いが活発になり効果があった。
11.12	2年 数学	授小林勇太教諭 「三角形の角」	○意見を共有することで、自分の考えの根拠を明らかにする。 ・自分だけでは自分自身が考えたものがなぜ正しいのか判断できなかったが、他の考えを知ることによって自分の考えの根拠を知ることができた。

11.14	教育水準向上授業研究会	○指導及び研究授業に基づく指導・助言 ○今後の研修の方向性の確認 ・可視化した考えを共有し、比較分類などの方法を用いて整理することができた。さらに試行錯誤させたり、考えを見直したりするような問い返しをすることで、思考を深めることになる。 ・生徒の言葉を上手く拾って授業を展開していくことでパス回し型の授業が成立していく。
	1年 英語 2年 理科 3年 道徳	授阿部美穂教諭 「Program6 The Way to School」 授諸田遼平教諭 「静電気と電流」 授岩崎雅大教諭 「二通の手紙」
11.18	全体会（第5回） ・教育水準を受け、研修内容の検討	○情報交換及び、教育水準向上授業研究会の指導・助言を確認
11.29	3年 理科	授阿部政教諭 「エネルギーの変換と保存」 ○エネルギーの変換方法について、様々な視点から考える。 ・生徒個々に変換方法をもつことができ、グループでの話し合いの成立につながった。
12.16	全体会（第6回）	○2学期の授業実践の成果と課題
1.17	1年 数学	授田中美優教諭 「空間図形」 ○立体を分類し、それぞれのグループの特徴を捉えられる。 ・ロイロノートで図形を動かして分類活動を行ったことで興味関心を高めたり、自分と他者の意見の比較（可視化）をしたりすることができていた。
1.27	全体会（第7回）	○今後の研修のまとめ・共通理解
2.17	全体会（第8回） ・今年度の成果と課題の検討	○研修の成果と課題のまとめ ○来年度の研究の方向性について検討
3.10	全体会（第9回） ・来年度の研修について ・研修のまとめ	○研修の成果と課題のまとめ ○来年度の研修主題、副主題についての検討

※資質向上研修

月日	区 分	講師、担当	実 施 内 容
5/27	アレルギー等に関する研修	養護教諭	食物アレルギーの緊急対応法
8/27	救急救命（AED）に関する研修	養護教諭／中央消防署	救急救命法、AEDの使用法実習
10/21	不審者対応についての研修	安全主任／沼田警察署	不審者対応

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	中 島 潔	教 諭	岡 田 秀 久
教 頭	大 澤 誠	〃	吉 野 弘
教 諭	井 上 治 男	養護教諭	富 澤 彩 香
〃	阿 部 政	統括事務長	小 野 千代子
〃	小 林 利 香	学校経営アドバイザー 非常勤講師	瀧 聞 京 子
〃	阿 部 美 穂	非常勤講師	金 子 真 人
〃	新 井 智 子	SSW	板 坂 まち子
〃	春 日 大	SC	茂 木 恵理子
〃	吉 野 智 彰	部活動指導員	金 子 功
〃	見 城 由 昭	教育支援員	飯 塚 貞 子
〃	小 林 勇 太	用 務 員	黒 岩 健 康
〃	諸 田 遼 平	スクールサポートスタッフ	渡 邊 司
〃	岩 崎 雅 大	拠点校指導員	下 田 洋 一
〃	田 中 美 優	初任研後補充	宮 下 宏

沼 田 東 中 学 校

所在地 〒378-0002 沼田市横塚町1118番地
電話番号 0278-22-2472 FAX 22-9859
校長名 浅見 尚孝

I 学校の経営

1 学校の教育目標

- 基本目標 『敬愛』… 個性を尊重し合い、共に個性を生かし合って学ぶ
『誠実』… 感謝と真心をもって実践する
- 目指す 『自発』… 「自ら学び続け、考え、鍛える生徒」
生徒像 『責任』… 「責任のもてる判断、行動をする生徒」
『協力』…◎「知恵と勇気を集め、課題を解決する生徒」
『礼儀』… 「互いに気持ちのよい生活を求め、実践する生徒」
- 目指す学校像
『さわやかで、笑顔あふれる、魅力ある学校（教師）』
 - ・ 師弟同行、率先垂範を教育活動の基本に据え、実践する学校（教師）
 - ・ 教育職としての高い意識をもち、使命感・情熱をもって指導する学校（教師）
 - ・ 職責に真摯に向き合い職務にあたるとともに、周りへの協力・支援ができる学校（教師）
 - ・ 生徒一人一人のよさや取組を認め、生徒に自己肯定感をもたせる学校（教師）

2 経営方針

【本年度の重点目標】生徒の『自己有用感』を高める教育活動の充実

- (1) 確かな学力の育成を目指す指導の改善と充実
- (2) 豊かな心と自主性・主体性を育てる指導の充実
- (3) 心身の健康の増進と体力の向上
- (4) 生徒指導・特別支援教育の充実
- (5) 家庭や地域、小学校との連携、キャリア教育・進路指導の充実
- (6) 持続可能な運営体制の構築及び多忙化解消に向けた勤務環境の改善

3 本年度の重点施策

〈学校経営方針の(1)について〉【わくわくスクール沼田】【家族で本を読みましよう】

- ・ 主体的、対話的で深い学びの実現に向け、生徒を中心に据えた「対話」と「交流」を生み出す学習活動の工夫
- ・ 育成すべき資質・能力を明確にした内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想（必要感のある課題の提示と身につけた知識・技能の活用）
- ・ 単元で身につける資質・能力に基づいた、単位時間における「めあて」「見通し」「学び合い」「振り返り」「評価項目」を意識した各教科の「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実
- ・ 丁寧な教材研究や互いの授業を見合う授業研究等による教師力の向上
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて1人1台端末を効果的に活用した学習指導の工夫
- ・ 国語の授業や朝読書、朝学習の時間における読解力向上に向けた取組の充実

〈学校経営方針の(2)について〉【命を守り育てる教育】【教育部活】

- ・ 教室環境や言語活動の整備など、生徒一人一人の存在や思いを大切にすること人権教育の徹底
- ・ 「考え（考えをもつ）・議論（考えを広げる・深める）する」道徳科に向けた指導の充実
- ・ 生徒が「自己有用感」を感じられる学年・学級づくり
- ・ 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用）
- ・ 教育部活動や運動会、委員会活動等の異学年集団による交流活動の充実

〈学校経営方針の(3)について〉【教育部活】【セイフティ沼田】

- ・ 学校保健委員会を中心とした心の健康、食育の推進及び感染症対策の徹底
- ・ 体力向上プランを踏まえ、教科体育を核とした学校体育の充実
- ・ 生徒の危険予測・危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進

〈学校経営方針の(4)について〉【沼田市SNSルール】【命を守り育てる教育】

- ・ 自己指導能力の獲得を支える生徒指導の「4つの視点」による指導の充実
- ・ 取組への「よさを認め、励ます」指導による「自己有用感」の高揚
- ・ 生徒指導委員会を核にした迅速な情報共有による組織的・計画的な生徒指導態勢の推進
- ・ 「個別的教育支援計画・指導計画」を基にした「合理的配慮」を意識した教科指導の推進
- ・ いじめ事案に対する法に基づく適切な対応及び不登校支援も含めた未然防止、組織的・計画的な対応の充実

〈学校経営方針の(5)について〉【幼小中連携】【ぬまた未来創造学】

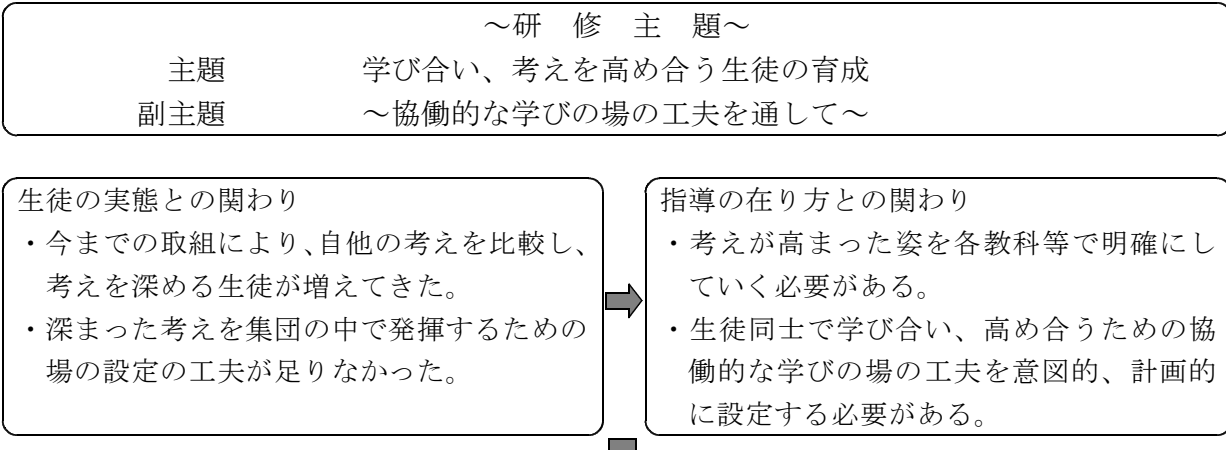
- ・ 家庭と連携した挨拶、早寝早起き、家庭学習等の生活・学習習慣の確立
- ・ 地域の理解や地域素材を活用した「東中大好き、利南大好き、沼田大好き」ふるさと学習の推進
- ・ コミュニティ・スクール導入により、学校と家庭、地域が連携・協働した教育活動の充実
- ・ 小中連携による各教科等の学びの連続性を意識した教育課程編成の推進
- ・ キャリアパスポートを活用した自分の生き方を見つめ、夢や希望を育むキャリア教育の推進

〈学校経営方針の(6)について〉

- ・ 報告・連絡・相談のしやすい風通しのよい職場作りの推進
- ・ 学び続ける教職員集団の実現と服務規律確保による信頼される学校づくり
- ・ 働き方改革に向けた教職員の意識の高揚と業務の効率化・最適化に向けた具体的な取組の推進
- ・ 年間を見通した計画的な年次休暇の取得推進

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由



2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・ 見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者との意見交流や対話を通して、お互いに考えを高め合うことができる。

(2) 共通実践する手立て

- ・ 各教科等で学び合い、考えを高め合った生徒の姿を具体的に示し、それを元に単元や題材で生徒が協働的な学びができるような場の設定を工夫する。
- ・ 【対話】と【交流】を手立ての中心とし、教師と生徒ではなく、生徒同士で対話ができるような機会を意図的、計画的に設ける。
- ・ 協働的な学びができるよう、ICT機器の活用や教材等の工夫、交流のさせ方の工夫など、具体的な支援を十分に検討しながら繰り返し実践し、よりよい支援に改善していく。
- ・ 思考ツールを効果的に活用し、協働的な学びに取り入れていく。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ 考えを高め合った生徒の姿を具体的に示したことで、授業研究会の際に同じ視点で議論することができた。
- ・ 様々な話し合いの場や意見交流の場の工夫を授業検討会で提案することができた。

○課題

- ・ 高め合った生徒の姿は明確になったが、高め合うための具体的な手立てをどこにどのように入れていくかを意図的に計画し、話し合いや意見交流に慣れさせていくことが必要である。
- ・ 協働的な学びの場を工夫するにあたり、生徒が必要感をもって取り組める課題を提供したり、生徒自身で課題を見つけさせたりする必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 各学年、各教科ごとに話し合いの場や意見交流の場を意図的、計画的に取り入れ、話し合いや意見交流を活性化させる手立ての工夫・改善を図る。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月 日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4/15	・校内研修主題の確認	○主題、副主題の検討 ・主題は「学び合い、考えを高め合う生徒の育成」 ・副主題は「協働的な学びの場の工夫を通して」
5/7	・各教科の目指す生徒像、指導案の形式について	・目指す生徒像の検討 (教科部会での確認) ・指導案の形式の確認
5/27	・年間授業予定、組織編成 ・授業者の確認 ・要請訪問 A に向けて	・研修計画等の確認 ・1人1授業の検討 ・1人1授業の授業実践について
6/7	授 国語科 登坂教諭	○作文を推敲し、考えを伝え合う活動の工夫 ・活動の場やペアを工夫することによって、主体的な話し合い活動になった。
6/10	・指導主事要請訪問 A	・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
6/24	・指導主事要請訪問 A を受けての反省と今後の課題	・各教科における授業実践とまとめ ・指導事項の確認と今後の取組の見直し
7/1	授 英語科 林教諭	○to を正しく使うための交流活動の工夫 ・教師の説明を短くしたことにより、生徒が活動する時間を十分に確保することができた。
9/2	・2学期の予定 指 要請訪問 B 指導案検討①	・2学期の研修予定について ・要請訪問 B までの計画の確認 ・指導案の形式、授業構想について
9/4	授 理科 小幡教諭	○実験を通しての学び合いの場の工夫 ・生徒の発言からめあてを導き出したため、生徒が必要感をもって課題に取り組めた。
9/17	指 要請訪問 B 指導案検討②	・授業の視点と校内研修との関わりについて ・単元、授業構想について ・深い学びにつなげる支援について
9/17	授 道徳科 篠澤教諭	○立場の違う様々な意見を出させる工夫 ・意図的なグループ分けをすることにより、様々な意見や考えが出た。
9/19	授 社会科 高橋教諭	○グループでの話し合い活動を活発化させる工夫 ・同じ立場の人が集まることによって、話し合い活動が活発になった。
9/27	授 技術科 野上教諭	○わかりやすいスライド製作のためのペア活動の工夫 ・相手のよいところを素直に褒めたり、意見を言い合ったり出来ていた。
9/30	指 要請訪問 B 指導案検討③	・ねらい、指導計画、評価項目等について ・深い学びの取り入れ方について ・めあての提示から振り返りまでの1時間の授業の流れについて
10/7	授 数学科 町田教諭	○比例する関数を効率的に見つけるための対話の工夫 ・関数を効果的に見つける方法が振り返りに表れていた。
10/9	授 数学科 関口教諭	○課題解決のための話し合いの場の工夫 ・話し合いのための工夫があった。 ・発問が明確で、授業の進め方が丁寧だった。
10/11	・指導主事要請訪問 B 授 音楽科 中村教諭	・授業検討会を通して校内研修の成果と課題の明確化 ○よりよい歌唱表現を考えるための話し合いの工夫 ・生徒が取り組みたいと思える魅力的な課題だった。 ・必要感のある課題だったので自然に話し合いが活発になった。

10/23	授 国語科 星野梓教諭	○文章構成を考えるための話し合いの工夫 ・授業の進め方の中で、途中でも活動を止め、作品鑑賞や振り返りができた。
11/25	授 英語科 亀井教諭	○考えを伝えるための段階的な交流活動の工夫 ・課題設定、その後の授業の流れがよかったので、生徒は意欲的に授業に取り組んでいた。
11/25	・B訪問を受けて	・B訪問を受けて、今後の校内研修の方向性の確認
12/9	・SOSの見つけ方	・SOSの見つけ方、受け止め方について
12/10	授 体育科 星野颯教諭	○よりよいルールを考えるための話し合いの工夫 ・タブレットを上手く活用し、効率的かつ意欲的に話し合いが行われていた。
1/27	・アンケートの配付 ・来年度の研修の方向性	・成果と課題、生徒の変容の確認 ・沼田市の教育について
2/17	・来年度の研修について	・来年度の研修の方向付け ・年間指導計画・評価計画の修正

※資質向上研修

月 日	研修計画 [内容]		実 施 内 容
	区 分	講 師	
5/7	メンター研修	メンター研修 担当	・評価の仕方 ・評価ソフトの使い方
5/27	著作権に関する研修	教 頭 栗原 伸明	・著作権取扱に関する研修
6/7	メンター研修	メンター研修 担当	・所見の書き方について
8/26	心肺蘇生法講習会	沼田消防署	・心肺蘇生に関する研修 ・AEDの使い方について
9/17	学校保健に関する研修	養護教諭 櫛渕 窓	・救急体制、アレルギー対応について ・熱中症対応について ・嘔吐物処理について
12/6	生徒指導に関する研修	スクールカウンセラー 廣田 莉奈	・SOSの見つけ方について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	浅 見 尚 孝	教 諭	小 幡 儀 見
教 頭	栗 原 伸 明	〃	野 上 沙 織
教 諭	林 秀 紀	養護教諭	櫛 渕 窓
〃	町 田 実	主任事務長代理	保 坂 歩
〃	篠 澤 敦 子	非常勤講師	金 子 友 美
〃	星 野 梓	初任研後補充	亀 山 晶 子
〃	亀 井 康 平	スクールカウンセラー	廣 田 莉 奈
〃	関 口 由香利	スクールソーシャルワーカー	相 原 英 子
〃	登 坂 俊 介	学校教育支援員	塩 野 美 喜
〃	高 橋 浩 美	用 務 員	宍 戸 裕 康
〃	星 野 颯	部活動指導員	新飯田 光 盛
〃	中 村 亮 太		

池 田 中 学 校

所在地 〒378-0073 沼田市発知新田町533番地
電話番号 0278-23-9330 FAX 23-9273
校長名 金井 綾子

I 学校の経営

1 学校教育目標

【心の豊かさを求める生徒】 【技の確かさを求める生徒】 【体の健やかさを求める生徒】

2 学校経営方針

スローガン：「一人一人がきらりと輝る池田中」

(1) 目指す学校像

- ・生徒が充実感をもって学校生活を送る学校
- ・保護者が信頼して任せられる学校
- ・地域が誇りにできる学校

(2) 目指す生徒像

- ・互いのよさを認め合い、礼儀正しく思いやりのある生徒
- ・自ら課題を見付け、積極的に学習する生徒
- ・すすんで体を鍛え、心身共に健康な生徒

(3) 目指す教職員像

- ・生徒一人一人のよさを認め、夢や希望をもたせる教職員
- ・常に専門性の向上を目指し、生徒の個性や能力を伸ばす教職員
- ・保護者、地域、同僚から信頼される教職員

3 本年度の重点施策

(1) 学校経営の充実【地域と共にある学校】

- ・地域住民との協働による教育活動の充実に努め、温かく活力に満ちた学校経営の充実に図る。
- ・「全職員で全生徒をみる」きめ細かな指導を通して生徒の多面的理解を図る。
- ・連絡・報告・相談を密にし、教育談義のできる明るい風通しのよい環境作りに努める。
- ・人事評価制度や各種研修を活用し、職員の職能成長を図る。

(2) 豊かな人間性の育成【ぬまた未来創造学・児童生徒の命を守り、育てる教育】

- ・総合的な学習の時間を中心に「ぬまた未来創造学」を推進し、郷土のよさを理解し、郷土に愛着をもてる人間性豊かな生徒を育成する。
- ・道徳科を中心として、全教育活動を通して自他のよさを認め合うことのできる生徒の育成を図り、温かな学校・学級作りを推進する。(全員道徳)
- ・信頼関係を基盤にした生徒指導を推進し、生徒の自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実に図る。(SCによる面談・授業)
- ・生徒主体の活動や行事、あいさつ運動等を通して、思いやりの心や温かい人間関係を育む。
- ・学校保健委員会を中心に、心の教育（ピアサポート等）を進め、支え合い寄り添う心を育成する。

(3) 確かな学力の向上【teachingからcoachingへ】

- ・ねらいを明確にし、それに沿った学習活動を行い、わかる授業、楽しい授業の実践に努める。
- ・個に応じた指導を心がけ、個性・特性を生かし伸ばす中で、生徒が主体的に学ぶ授業を展開する。(個別最適な学び・協働的な学習・ICTの積極的な活用)
- ・管理職の授業参観を日常的に行い、フィードバックすることにより、教師の指導力の向上を図る。
- ・一人1授業の研究授業と授業研究会を通して、若手もベテランも自己の授業改善に取り組む。
- ・家庭学習の内容や方法を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。

(4) 体力の向上・健康増進【教育部活】

- ・体力向上プランに基づき、視点を明確にした保健体育の授業や体育的行事、部活動指導を継続的に実践することで、持久力や筋力、運動技能を高め、体力の向上を図る。
- ・部活動においては、教育部活の理念に基づいた活動を行い、副顧問の配置や外部指導者の招へいなどにより、安全確保や技術面の向上を図る。
- ・保健だよりや掲示物等による啓発活動を通して、疾病治療率の向上やよりよい生活習慣の定着を図る。また、学校保健委員会の取組により、健康の増進や体力向上を図る。

(5) 家庭・地域・小中連携【小中連携・コミュニティスクールの推進】

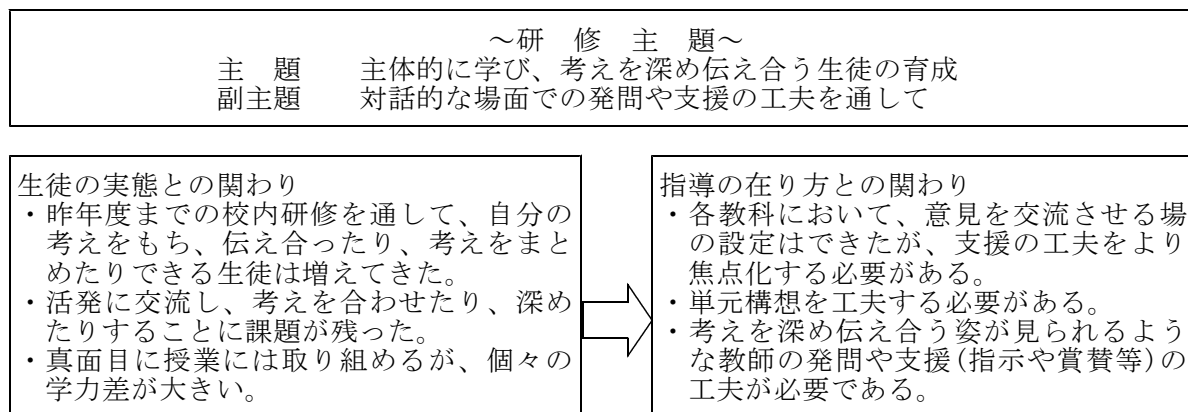
- ・小中連携推進会議を年2回開催し、教育効果をさらに高めるための連携を推進していく。
- ・小中合同でのあいさつ運動や、英語科における指導、小中相互の授業参観等を通して、小中での指導・学びを連続させるとともに、児童・生徒の多面的理解に努める。
- ・学校運営協議会を通じて、目標やビジョンの共有を図り、さらなる連携と協働を推進する。
- ・地域学校協働活動推進コーディネーターに図書室の整備や職場体験活動の支援ボランティア探し等を依頼し、実績をつくりながら活動の活性化を図る。

(6) 安全教育の推進【セイフティ沼田】【沼田市SNSルール】

- ・各種避難訓練、交通安全教室等を通して、生徒自身の危機管理意識や危険回避能力を高める。
- ・情報モラルに対する学習の機会を意図的に設定したり、ノーメディアウィークや池中SNSルールの見直し等を継続して行ったりして、家庭と連携しながら、情報モラル教育の充実に図る。

Ⅱ 校内研修の推進

1. 研修主題及び設定の理由



2 研修内容・方法

- (1) 具現化した目指す生徒像
協働して粘り強く学習に取り組み、自己の考えを広げ深めている生徒。
- (2) 共通実践する手立て
 - ・単元の中で効果的な意見交流ができるような対話的な場面を設定する。
 - ・生徒同士の対話が深まるような、発問や支援について各教科で工夫していく。
(具体的な指示、良い姿への賞賛、補助発問の工夫、話し合いのポイントの明示)

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と課題と今後の取り組み

- 成果
 - ・生徒同士の対話が深まるような発問や支援の工夫では、主発問の他に、意見交流の時に教師が補助発問を投げかけることによって話し合いが活性化する様子が見られた。また、良い意見交流の姿を認め、賞賛することで、生徒の意欲の向上にもつながった。
 - ・授業研究会では、生徒同士の対話が深まるような工夫を「研修のバトン」として次の授業者につなげていくことで、主題に迫る研修を意識して行うことができた。
- 課題
 - ・生徒同士に積極的な交流は見られたが、十分な対話の時間の確保や、対話が深められるような教師の補助発問には課題が残った。
- 今後の取り組み
 - ・引き続き、意見交流の場を意図的に設定し、対話が深まるような主発問や、補助発問、指示や賞賛等の工夫をしていく。また、意見交流での話し合いのポイントを明確に指示する、対話の時間を充分に取れるような時間の確保、生徒の振り返りに表れて欲しい姿をイメージして授業を組み立てるという授業の基本を継続していく。

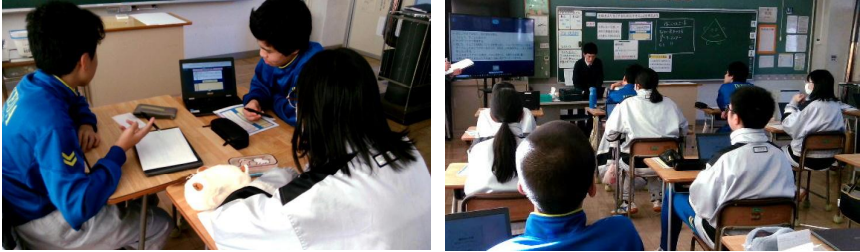
3 研修計画・経過報告

指 指導案検討

授 授業研究会

月日	内 容	経過報告 [○研修の視点、◎成果 ◇研修のバトン]
4. 4	推進委員会	○今年度の研修主題、研修内容の確認
4. 8	全体会①	○研修主題「主体的に学び、考えを深め伝え合う生徒の育成」、副主題「対話的な場面での発問や支援の工夫を通して」に決定
4. 18	推進委員会	○目指す生徒像の確認、研修方法の検討
4. 22	全体会②	○各教科で目指す生徒像の確認

5. 24	推進委員会	○ A 訪問の確認、一人一授業の確認
5. 27	全体会④	○実施時期の決定とロイロノートを用いた授業研究会の確認
6. 17	全体会⑤	○ A 訪問準備
6. 21	指導主事訪問 A	○今後の研修の方向性について指導主事より助言
6. 27	推進委員会	○ A 訪問での助言を受けて、今後についての確認
7. 1	全体会⑥ 授 2 年理科 「化学変化と原子・分子」阿部教諭	◎教師の支援が適切で生徒がすることが明確だった。予想を立てられない生徒も意見交流を通して書くことができた。 ◇発問や支援の工夫が今年の研修の中心であり、ここを意識してこれからの授業も組み立てていく必要がある。 
7. 16	全体会⑦ 授 3 年音楽 「合唱」 鈴木教諭	◎表現の工夫の例が分かりやすく、発問や補助発問が丁寧で、生徒がやるべきことが分かっている活発な活動となった。 ◇表現の工夫の例の時間を短くするなどして、意見交流の前に、短い時間であっても個人で考える時間がとれると良い。
9. 24	全体会⑨ 授 2 年数学 「1 次関数」 萩原教諭	◎追究してみたいくなる課題設定と、丁寧な発問や補助発問、友達の考えを知りたくなる交流の仕方で活発な活動となった。 ◇話し合いのポイントや、振り返りに表れて欲しい姿をイメージして授業を組み立てていくことが大切である。 
10. 10	推進委員会	○指導主事訪問 B について、研修の経過報告
10. 15	全体会⑩ 授 1 年保健体育「心身の機能の発達と心の健康」山口教諭	◎生徒の発言やつぶやきを取り上げ、賞賛したり、問い返しをするなどして、生徒が意欲的に活動できた。 ◇意見交流が活発になるような提示資料の精選や、提示のタイミングを考えることが大切である。
10. 29	全体会⑪ 指 小林教諭	指導主事訪問 B 第 1 回指導案検討
11. 5	全体会⑫	指導主事訪問 B 第 2 回指導案検討

	指 小林教諭	
11.18	全体会⑬ 授 2年英語 「Program 5 Work Experience」岡田教諭	◎ねらいを達成するための「わかりやすく」「詳しく」するための例示が具体的で、生徒がそれを意識して交流できた。 ◇英作文の推敲は個々の能力差が大きく、交流が難しい生徒もいた。何か1文付け加えるなどの指示があってもよい。
11.21	指導主事訪問B 授 2年社会 「地域の在り方」 小林教諭	◎話し合い活動における手立て（視点・内容の確認・途中で止める・資料の提示）などが、活動を活性化させるのに効果的であった。ICT（1枚のシートにまとめる・欠席者も参加できる）の活用もよかった。地理的分野の学習として他教科や総合との異なる点についてさらに練り上げられるとよい。
		
1.24	推進委員会	今年度の研修のまとめ
1.27	全体会⑭	今年度の研修のまとめ（成果と課題の確認）
2.19	推進委員会	来年度の研修の方向性について
2.25	全体会⑮	来年度の研修についての確認

○資質向上研修

	区分	講師	内容
5月 7日	保健	養護教諭	アレルギー対応、熱中症の予防、てんかんについて
5月13日	メンター 研修	メンターチーム リーダー	メンティーの困り感や課題、行事等から設定
6月24日			・各行事における学級経営
9月 2日			・学級経営のポイント
12月 2日			・連絡や指示の徹底に関する支援
1月20日			・（学級内の）人間関係のトラブルへの対応
2月10日			・学校を変えていくための生徒の支援について

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	金 井 綾 子	教 諭	小 林 寿 雄	教諭(学校間連携)	岩 崎 雅 大
教 頭	角 田 厚	〃	岡 田 華	非常勤講師	金 子 友 美
教 諭	星 野 文 隆	〃	山 口 傑	初任研指導員	鈴 木 貴 代 美
〃	阿 部 万 里 子	養護教諭	高 橋 渚	初任研後補充	中 島 純 子
〃	萩 原 正 人	事務主事	小 林 ゆり江	SC	阿 左 見 康 成
〃	鈴 木 香 穂	教諭(学校間連携)	林 徹 志	用務員	石 田 久 米 幸

薄 根 中 学 校

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町40番地
電話番号 0278-22-3180 FAX 22-9860
校長名 佐藤 啓文

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 基本目標

豊かな人間性、高い知性、たくましい身体を育て、自ら考え、正しく判断し実践できる生徒の育成を図る。

(2) 具体目標

- 「友愛」 自らに厳しく、思いやりのある、明るい礼儀正しい生徒
- 「英知」 自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 「健康」 自ら鍛え、心身共にたくましい生徒

2 経営方針

(1) 指す学校像

「生徒が充実感をもてる学校」 「保護者から信頼される学校」
「地域が誇りにできる学校」 「教師のよさを発揮できる学校」

(2) 目指す生徒像(う・す・ねの心を身に付ける)

「う」美しい心……………自他を大切にし、あいさつができる生徒
「す」進んで取り組む心……………自分で決めたことを実行していく生徒
「ね」ねばり強い心……………目標に向かって努力を続ける生徒

(3) 目指す教職員像…熱意、愛情、誠意のあふれる教職員

- ・各主任のリーダーシップによる組織的な役割分担を通して資質向上を目指す教職員
- ・学校課題を分析し明確化することにより、解決に向けて努力する教職員
- ・日常的に授業改善に努力すると共に、人事評価制度等を職能成長に生かす教職員
- ・校務の効率化による多忙感の軽減と風通しのよい職場を作る教職員
- ・教職員一人一人のよさを生かし、学校経営に自ら参画する教職員

3 本年度の重点施策

(1) 「豊かな人間性」を育てる指導の充実

- ①「特別の教科 道徳」における「考え・議論する」等の指導方法、指導体制を改善し、全教育活動を通して道徳的实践力を育成する。
- ②体験的な学習活動やボランティア活動等を通して、違いを認め自他を受容し、相手の立場に立って考え、互いの尊厳を認め合う心を育成する。
- ③部活動の地域移行を踏まえ、部活動の意義とねらいを理解させ、目標に向かってねばり強く取り組む実体験を重視する。

(2) 「高い知性」を育てる指導の充実

- ①ねらいを吟味し、見通しと振り返りを明確にした一単位時間における授業改善に努める。
- ②主体的・対話的で深い学びにつながるように、教科横断的に学び考える活動を通して、学ぶ楽しさや喜びを実感させる。
- ③1人1台端末を効果的に活用した学習活動や学習過程を工夫し、学習意欲の向上と深い理解とともに授業のねらいを達成する。

(3) 「たくましい身体」を育てる指導の充実

- ①健康リズム、質の高い食事や睡眠を理解させ、免疫力を高めながら、基本的な生活習慣の確立を推進する。
- ②感染症に対する正しい知識と感染防止対策を習慣化し、新型コロナウイルス感染症等の流行の防止を自ら実践できる力を育成する。
- ③学校保健委員会の機能を活用して、心の健康、食育指導の推進を図る。

(4) 生徒指導・特別支援教育の充実

- ①生徒指導委員会を核として全教職員の共通理解のもとに、組織力で積極的な生徒指導を推進する。
- ②多面的・多角的な視点から生徒理解に努め、成長の過程や変化を見取り「よさを認め、励ます」指導により生徒の可能性を伸長する。

(5) 家庭、地域や幼小中の連携、進路指導やキャリア教育の充実

- ①家庭との連携により、基本的な生活習慣や学習習慣を確立する。
- ②地域との連携により、「薄中大好き、薄根大好き、沼田大好き」の特色ある教育活動を推進する。
- ③「なめらかな接続」と「適度な段差」等により、幼小中が連携した教育活動を推進する。

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
主体的に学びに向かう生徒の育成
～教科の特質を生かした学習課題の工夫と協働的な学びを通して～

生徒の実態との関わり

- ・本校生徒は教師の与えた課題に対して取り組むことができる。しかし、自ら考えを深めたり交流したりすることは少なく、自ら課題を設定し、主体的に学びに向かう生徒の育成は学校の課題である。
- ・意見交流の場面において、自分の考えを伝えることで満足してしまう生徒が多い。考えを深める場面では、発言力のある生徒は発言できるが、すべての生徒が発言できていない。ICT を利用した意見交流・共有は効果的であるが、生徒同士直接のコミュニケーションに課題がある。

指導の在り方との関わり

- ・主体的に学習に取り組むために、学習意欲を高める学習課題の工夫や、明確な学習のゴールの設定を目指す必要がある。
- ・協働的な学びを意図的、計画的に設定し、学びが深められるよう工夫する必要がある。
- ・教師の資質向上のため、異なる年齢層の教師同士の意見交換（メンター研修）や他教科間の意見交流を行い、学び合う関係作りを目指す。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

自ら学習課題を設定し、自分事として捉え、他者と協働しながら、自分の考えを深め、主体的に課題解決しようとする生徒

(2) 達成するための共通実践する手立て

1 学習課題の工夫について

- ・生徒が学習の方向をイメージできるように単元や題材及び、一単位時間の課題の設定を工夫する。
- ・生徒一人一人が自分事として探究することのできる学習課題の設定を工夫する。

2 協働的な学びについて

- ・協働的な学びを行う場面や時間を単元計画や指導計画に位置づけ、協働する場面を意図的、計画的に設定する。
- ・考えや話し合いを深めるための思考ツールの活用や、交流のさせ方の工夫など、教科の特質に応じた協働的な学びができるような授業を実践する。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・各教科において学習課題の工夫、協働的な学びの実践に取り組むことができた。
- ・話し合いの視点を示したり、協働する人数や意図的なグループ構成などを工夫したりすることで、対話やアドバイスが活発になり、意欲的に授業に取り組む姿を見ることができた。

○課題

- ・考えを深める話し合い活動の時間が足りないことがあった。
- ・生徒のワークシート、教師の板書においてもデジタル（ICT 活用）とアナログの使い分けを行い、協働的な学びが行われるよう工夫する必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・授業実践の反省を教科部会で行い、各教科においての指導を一層充実させていく。

3 研修計画・経過報告

全は全体会 推は推進委員会 指は指導案検討 授は研究授業 メはメンター研修 教は教科部会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.17	推1 今年度の研修主題・内容等について	○研修の方向性の確認 ・教科の特質を生かした学習課題について検討できるよう教科部会を構成した。また、研修内容や方法の確認も行った。
4.22	全1 研修主題の設定、授業計画立案、研修計画書	
5.7	全2 A訪問に向けて研修の進め方研修組織について	○研修主任会の伝達 ・答えが一つではない問い、解決したくなるような学習課題の設定、オープンエンド、分析・比較・評価など一段上の思考が要求される問いの設定等、課題設定の方法について理解を深めることができた。
5.27	全3 NRT標準学力検査の分析 道徳教育の取り組み	○NRT標準学力検査の分析 ・テスト結果について考察を深め、生徒の実態把握ができた。 ○道徳教育の本年度の取組について説明 ・ICTの積極的な活用、学年の実態に合わせて重点項目を決定すること、評価について等の確認を行った。
6.20	授 一人一授業 武藤教諭 1-1 社会 「世界の諸地域アジア州」	○学習課題を設定する場面において、社会的な見方・考え方に留意し、友達の課題に対してアドバイスし合ったことは、生徒が主体的、協働的に学習課題を再設定することに有効であったか。 ・社会的な見方・考え方を示す「社会的な視点」や、話し合いの視点を提示することにより、活発にアドバイスすることができ、さまざまな視点から学習課題を再設定することができる。
7.1	全4 協働的な学び実践紹介	○協働的な学びについて他校における実践例の紹介 ・協働的に学び合わせるための工夫として①課題意識をもたせるための学習課題の工夫する。②学習課題に対する生徒の反応を予想する。③生徒の考えを、どの順に拾い上げることが有効かを考える。①～③の具体例の説明を行ったことで、協働的に学びについて理解が深まった。
7.16	授 一人一授業 後藤教諭 2-2 社会 「都市の繁栄と交通路の整備」	○ICTを活用し、効率的なグループ活動を行うことは、交通路の発展に与えた影響について考え、表現することに有効であったか。 ・課題を分担することで協働的な学びが実現できる。 ・学びのチェックポイントを明示することで、どのようにまとめればよいか生徒に十分に理解させることができる。
7.18 7.19	授 一人一授業 下飯教諭 1-1,1-2 技術 「生活に役立つものを作ろう」	○生活に役立つ製作品を設計するために、話し合わせたことは、寸法や形状を決定することに有効であったか。 ・製作するタイプごとにブースを設置し、協働的な学びをする班を意図的に構成することで、寸法や形状についてアドバイスしあうことができる。
8.30	授 一人一授業 大竹教諭 3-2 道徳 1-(2) 勤勉・努力「高い目標を持ち、強い意志を持つ」	○偉人の生き方について話し合うことで、より高い目標を達成しようとする態度を育てるために有効であったか。 ・指導案に記載されている『予想される生徒の意識』を、必要に応じて主発問の文言を変えたり、違う切り口からの発問にすることも有効である。
9.30	全5 一人一授業の振り返り 授業検討会内容の伝達	○学習課題と協働的な学びについて工夫 ・協働する人数、誰と協働するか(グループ構成)の工夫 ・生徒が自分事として探究することができる課題設定の工夫
10.21	全6 指導案検討 (1回目)	○「学習課題の工夫」「協働的な学び」について ・月のモデルを操作する活動を通して、月の満ち欠けがどのように起こるのかをまとめ、説明させる。仮説を立てさせたり、関連づけさせたりする際に、ICT端末を活用し考えをまとめることで、月の満ち欠けが起こる理由を理解できると考える。
10.22	授 一人一授業 星野教諭 2-1,2-2 理科 「動物の体のつくりとはたらき」	○実験結果からどのようなことが言えるかを班ごとに話し合わせたことは、だ液によるデンプンの変化を言葉を使って適切に表現することに有効であったか。 ・試験管の色の変化をまとめる表、色の変化から状態の変化が分かる表に記入させることで、考察や話し合いが活発に行うことができる。 ・タブレットのカメラ機能などの活用によって、班ごとの実験結果の比較が明確になり、考察する時間を十分に確保することができる。
11.6	授 一人一授業 正田教諭 3-1 美術 「ゲルニカ、明日への願い」	○「ゲルニカ」を鑑賞し、表現の特徴や工夫を見つけさせたことは、作品に込められた作者の思いを考えることに有効であったか。 ・班で一枚の大きな絵に付箋を貼っていく活動によって、意見を出し合いながら考えを深めることができる。
11.7	授 一人一授業 佐藤教諭 1-1 国語 「スピーチ」	○お互いのスピーチを聞き、アドバイスする活動をさせたことは、話し方の工夫を意識することに有効であったか。 ・シンキングツールのクラゲチャートにアドバイスシートを貼り付けることで、より良いアドバイスを行えるようになり、コミュニケーションとしての伝え方について考えを深めることができる。

11.11	全7	指導案検討（2回目）	・B訪問の授業構想 ・指導案に基づく授業改善策の検討と本時の学習の流れについて検討を行った。
11.13	授	一人一授業 真庭教諭 3-2 保健体育 「武道 柔道」	○グループ活動を取り入れ、撮影した動画を確認しながら崩しのコツを話し合わせたことは、相手の重心やバランスを不安定にするためのよりよい方法を理解するために有効であったか。 ・崩しゲームを取り入れ、グループ活動で話し合いの必然性をもたせることによって、技能を獲得する過程で思考を深めることができる。
11.15	授	一人一授業 山本教諭 2-1 英語 「Program 5 The Story of Chocolate」	○関係代名詞を用いたクイズを作成する活動において、助言し合う場面を設定し、シンキングツールを用いて一人一人に観点別のアドバイスを送る学習活動を行ったことは、生徒が主体的、協働的に学習に取り組み、自分の考えを深めるために有効であったか。 ・クイズの改善点を観点別に示した「熊手チャート」を用いたことで、互いにアドバイスしやすくなった。また、課題内容を分類しやすいため、生徒は自分の課題を明確に捉えられ、その後のクイズの修正をスムーズに行うことができる。
11.22	授	一人一授業 竹内教諭 2-2 音楽 「My Melody 創作-音のつながり方-」	○グループ活動を取り入れ、お互いに抑揚を確認し、助言をもとに音を変えたり、リズムを工夫し試行錯誤したことは抑揚に合わせた旋律をつくることに有効であったか。 ・ワークシートに歌詞や音符を記入できるよう工夫したり、ICTを活用し実際に音楽を聴いたり、自分で歌ったり、友達に歌ってもらったりしながら試行錯誤することで、抑揚に合わせた旋律をつくることができた。
11.27		指導主事訪問 B 原教諭 3-1 理科 「地球と宇宙」	○月のモデルを操作して月の満ち欠けがおこるしくみを考えさせたことは、協働的な学びを充実させ、個の思考や理解を深めることに有効であったか。 ・予想を立てたり、モデルを操作したり、満ち欠けのしくみを説明したりする場面で、班の生徒同士で相談しながら考えることができた。 ・月の満ち欠けがおこるしくみを説明する際に、実物のモデル、タブレット端末、絵や図から適した方法を選択し、説明させることで理解を深めることができた。
12. 9	全8	今年度の振り返り 「学習課題の工夫」「協働的な学び」実践紹介	○今年度の一人一授業の振り返り ○一人一授業におけるICT活用の実践例紹介 ○学習課題の工夫の実践例紹介
1. 9	推3	今年度の成果と課題 次年度に向けて	○アンケート集計から次年度への研修主題、副主題について検討 ・今年度の成果と課題について ・次年度の研修について
1.20	全9	校内研修のまとめ	○今年度の成果と課題を踏まえ、次年度の研修の研修主題、副主題について検討

※資質向上研修

月日	区分	講師	内容等
7. 1	服務規律の確保	服務規律担当	服務規律の確保に向けての職員研修
随時	メンター研修	メンター主任	指導技術、生徒指導、保護者対応、教材研究等について

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	佐藤 啓文	教諭	後藤 遼太
教頭	大塚 純子	教諭	小竹 誠明
教諭	中山 島保	教諭	小星 渕恵子
教諭	阿部 陽子	教諭	正田 理佳
教諭	眞部 哲也	教諭	小野 茂子
教諭	原下 理江	養護教諭	小吉 野恵子
教諭	藤原 新光	主幹事務長代理	小海 理さと
教諭	武下 藤英	学校教育支援員	小後 裕美子
教諭	真庭 飯由	学校事務補助員	茂木 恵理子
教諭	小野 香那	スクールカウンセラー	坂井 正俊
教諭	佐藤 尚樹	スクールソーシャルワーカー	
教諭		用 務 員	

白 沢 中 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平75-1
電話番号 0278-53-2009 FAX 53-3984
校長名 三俣 利明

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) **学校教育目標** 〔教育目標〕自ら正しく判断する力を養い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を期する。

(2) 目指す具体像

〔目指す生徒像〕○自主：正しく行動できる生徒 ○勤勉：ねばり強く学ぶ生徒

○奉仕：人のためにつくす生徒 ○友愛：温かな心をもった生徒○健康：心身ともに鍛える生徒

〔目指す学校像〕○全ての人にとって学びがあり、育ち合える「みんなの学校」

- ・学び合う楽しい学校【生徒】 ・働きがいのある学校【教職員】
- ・安心して通わせたい学校【保護者】 ・応援したい学校【地域・関係機関】

〔目指す教職員像〕

- 得意なことを生かし、学び続ける教職員○いつでも生徒や保護者の声を聴き心に寄り添う教職員
- 笑顔と明るい声で受け入れ合う教職員

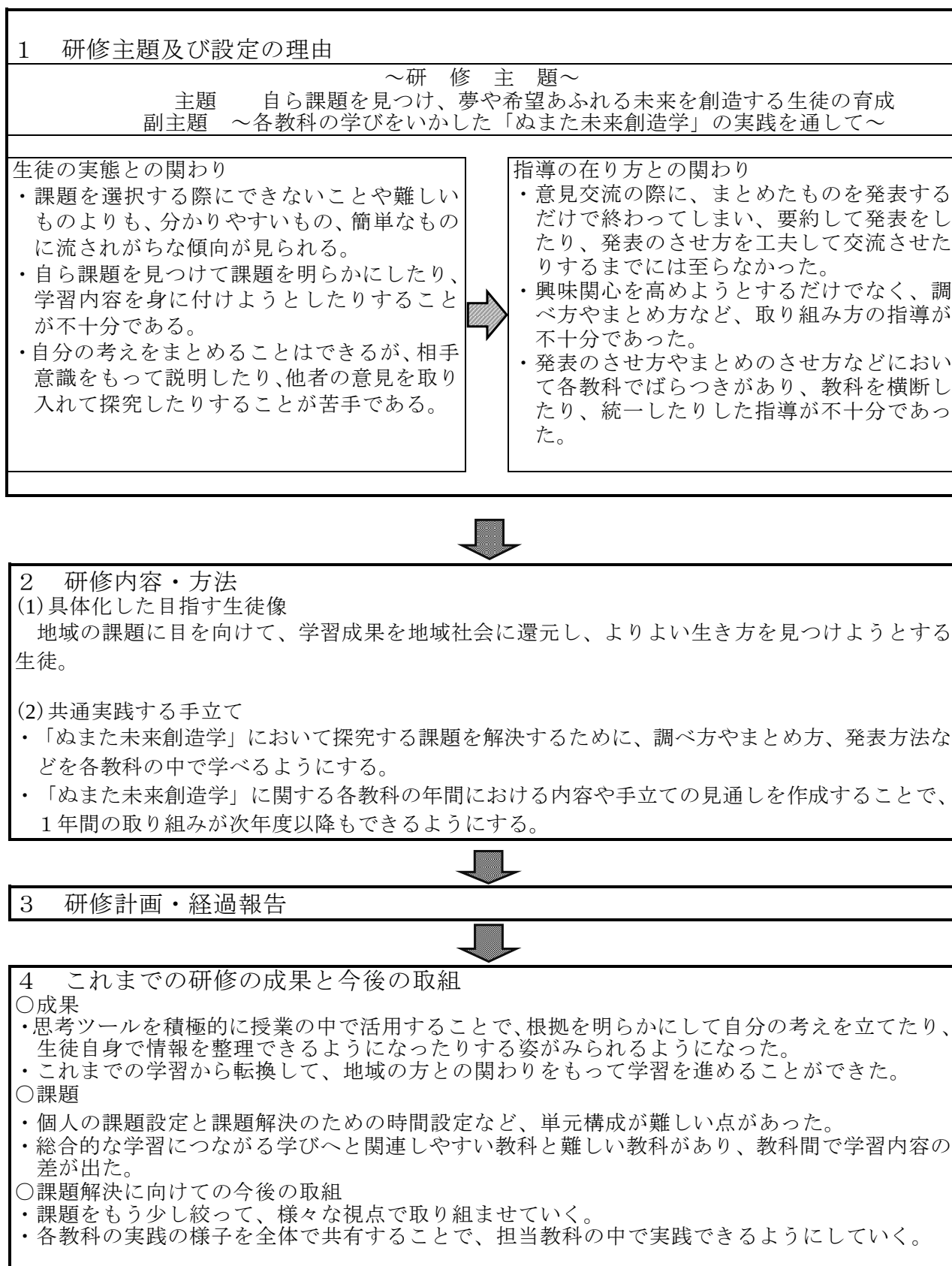
2 経営方針

- (1) ICT を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善の推進
- (2) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- (3) 生徒の規範意識の高揚や自己肯定感・自己有用感の醸成に向けた、多面的・総合的な生徒理解と道徳教育を中心とする心の教育を基盤とした積極的な生徒指導の充実
- (4) 望ましい生活習慣を基盤に、体力向上に向けて運動に親しむ活動の充実
- (5) 生徒が心身ともに健康で安心・安全な学校生活を送れるような感染症対策
- (6) 自然災害や事故等から主体的に命を守る取組の推進
- (7) 家庭や地域と連携したコミュニティ・スクールの推進によるふるさと白沢を愛する心の育成
- (8) 生徒一人一人の可能性を見出しながら、家庭と学校をつなぐ学びと希望進路の実現
- (9) 教育に携わる公務員としての自覚と使命感による服務規律の確保の徹底
- (10) 働き方改革の推進や労働安全衛生環境の改善と、同僚性豊かで働きがいのある職場環境づくりの推進

3 本年度の重点施策

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、生徒が「成長する授業」の実践
- (2) 1人1台端末等を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実践
- (3) 客観的なアセスメントに基づいた、発達特性に応じた指導・支援の推進
- (4) 体験的な学び、課題解決の過程を重視した学習の充実
- (5) 地域の方々との関わりの中で、ふるさとについて学び、地域活動に参画する態度の育成
- (6) 生徒の主体性・自主性の伸長を図るため、「信じて寄り添う」指導・支援の推進
- (7) 現象面にとらわれず、背景をとらえ、生徒の個性の伸長を促す指導の充実
- (8) 生徒の多面的な理解に努め、どの子にも居場所のある、心地よく魅力ある学校づくりの推進
- (9) 望ましい人間関係の構築と自己実現を図ろうとする態度の育成
- (10) 多様な人材を教育資源と捉え、生徒の成長のための積極的な連携
- (11) 健康・交通安全、防災、情報モラル等に係る「命を守り、育てる教育」の推進
- (12) 健康的な生活のための運動の楽しさや喜びを味わえる部活動の充実
- (13) 保護者への迅速な連絡・対応による情報共有や、協働的な関係づくりの充実
- (14) 各種危機管理マニュアルの活用と、防災及び不審者対応訓練等の実施
- (15) 挨拶や清掃等、当たり前で平凡なことを大切にする社会性の高い雰囲気づくり

Ⅱ 校内研修の推進



3 研修計画・経過報告

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.15	【校内研修推進委員会①】 ・研修の概要の検討	○校内研修の概要と見通しについて検討する。 ・研修テーマについて共通理解を図り、今年度の研修の方向性を確認し、今年度の校内研修の見通しをもつことができた。
4.18	【校内研修推進委員会②】 ・研修の概要の検討	○校内研修の概要と見通しについて検討する。 ・前回の議論を基に、今年度の校内研修の見通しをもつことができた。
4.22	【第1回校内研修(全体会)】 ・研修の概要(主題・副主題) ・指導主事訪問Aに向けて ・目指す生徒像について	○校内研修の概要と見通しについて検討する。 ○A訪問に向けての日程を確認する。 ○目指す生徒像について検討する。 ・A訪問に向けての日程、学習指導案の書式、目指す生徒像について共通理解を図ることができた。
5.20	【第2回校内研修(全体会)】 ・計画立案 ・授業実践、目指す生徒像について ・研究事項の検討	○主題設定の理由、ねらい、内容、方法、計画を再確認する。 ○目指す生徒像を検討する。 ・主題設定について共通理解を図ることができた。
6.10	【第3回校内研修(全体会)】 ・NRT 学力テストの分析 ・ぬまた未来創造学の各教科実践について	○研修内容の再確認、修正、共通理解を図る。 ・NRT の分析を通して、生徒の実態についての共通理解ができた。 ・ぬまた未来創造学の実践方法について、共通理解ができた。
6.26	指導主事訪問A	○校内研修の方向性を確認し、指導をもらうとともに、個々の目標を明確にする。 ・授業実践を行い、指導主事からの指導助言を踏まえ、個々の目標を明確化した。
7.8	【第4回校内研修(全体会)】 授 櫻井 教諭 3年総合 「ぬまた未来創造学」	○ぬまた未来創造学の内容を知ったり、現代の諸課題を考えたりする活動を通して、テーマ設定を立てる見通しをもつことができるようにする。 ・社会科での既習内容を活用して学習の見通しをもたせたことで、調べたいテーマを設定させることができた。
8.27	【研修推進委員会③】 指導主事訪問Bに関わる検討	○B訪問に向けての方向性や内容を確認する。 ・B訪問に向けた予定を立てることができた。
9.9	【第5回校内研修(全体会)】 授 南雲 教諭 1年総合 「ぬまた未来創造学」	○ウェビングを行い、実生活との関わりや、実現したい未来の姿などを考慮して、探究したいことの方向性を考える活動を通して、今後の探究活動へ見通しをもつことができるようにする。 ・思考ツール(ウェビング)を活用したことで、生徒が主体的に活動に取り組みながら今後の活動の見通しをもたせることができた。
9.9	【研修推進委員会④】	○B訪問に向けての方向性や内容を確認する。 ・指導案検討を行い改善点の確認を行った。

10.4	【研修推進委員会⑤】	○B訪問に向けての方向性や内容を確認する。 ・指導案検討を行い改善点の確認を行った。
10.7	【第6回校内研修（全体会）】 指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討① ・服務に関する研修	○B訪問に向けて共通理解を図る。 ・全体で指導案検討を行い、改善点の確認を行った。 ・服務について、職員間で共通理解を図った。
10.17	【研修推進委員会⑥】	○B訪問に向けての方向性や内容を確認する。 ・指導案検討を行い改善点の確認を行った。
10.23	【第7回校内研修（全体会）】 指 指導主事訪問Bに関わる指導案検討②	○B訪問に向けて共通理解を図る。 ・全体で指導案検討を行い、改善点の確認を行った。
10.29	【第8回校内研修（教育研究所授業参観）】 授 清水 教諭 2年総合 「ぬまた未来創造学」	○職場体験学習から得た情報を共有し、話し合う活動を通してグループで新たな気付きや発見から追究していく課題を見直すことができるようにする。 ・話し合い活動を設定したことで、グループで新たな気付きや発見をしたり、新たな課題を立てたりすることができた。
11.19	授 指導主事訪問B 齋藤 教諭 2年総合 「ぬまた未来創造学」	○研修のねらいを達成するための授業の在り方を探り、成果と課題を明らかにする。 ・生徒が自ら設定した課題を解決するために、地域のためにできることを生徒たちが一生懸命考えて取り組む姿が見られた。
12.9	【第9回校内研修（全体会）】 ・中学校特別支援学級卒業後の進路と療育手帳について	○特別支援学級卒業後の進路や療育手等について、沼田特別支援学校専門アドバイザーに研修をしていただくことを通して情報を得る。 ・療育手帳や中学校卒業の進路など特別支援教育に関する知識を深めることができた。
1.20	【第10回校内研修（全体会）】 ・指導主事訪問Bを受けての反省、改善点の確認 ・本年度の成果と課題 ・アレルギーに関する研修	○研修を振り返り、成果と課題をまとめる。 ・B訪問を受けての反省を踏まえ、本年度の成果と課題を確認することができた。 ・アレルギーに関する理解を深めることができた。
2.17	【第11回校内研修（全体会）】 ・来年度のテーマの方向性の検討	○授業実践をまとめる。 ○成果と課題から次年度の研修について検討する。 ・今年度の課題を踏まえ、来年度のテーマの方向性を確認することができた。

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	三 俣 利 明	教 諭	宮 田 淳 子
教 頭	小 曾 根 一 広	教 諭	須 田 秀 昭 (1学期)
教 諭	石 井 華 恵	家 庭 科 指 導	片 野 由 紀 子
教 諭	南 雲 優 人	養 護 教 諭	小 渕 里 江
教 諭	齋 藤 広 大	事 務 主 事	佐 藤 佑 香
教 諭	櫻 井 慎 吾	用 務 員	小 池 吉 保
教 諭	清 水 健 一 朗	支 援	中 澤 かな子
教 諭	堀 江 則 子	心の教室相談員	大 竹 士 郎
教 諭	山 岸 信 之	部 活 動 指 導 員	梅 澤 周 平
教 諭	林 徹 志	ス ー ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	廣 田 莉 奈

利 根 中 学 校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝334番地
電話番号 0278-56-2044 FAX 56-4209
校長名 林 崇夫

I 学校の経営

1 学校の教育目標

(1) 学校教育目標

〔基本目標〕 高い知性と豊かな心をもち、心身ともに健康で、強く逞しく生きる生徒を育成する。

スローガン：自分と他者を尊重し、自ら考え行動する ～ 明るく、元気に、前向きに ～

〔具体目標〕 ○向学（知）：学ぶ意欲と向上心をもつ生徒
○克己（体）：心身ともにたくましい生徒
○優雅（徳）：自他のよさを認め合える生徒

(2) 経営目標

〔目指す学校像〕 ○楽しさと潤いに満ちた、活力ある学校
・楽しく学び合える学校【生徒】
・働きがいのある学校【教職員】
・安心して通わせたい学校【保護者】
・応援したい学校【地域】

〔目指す教職員像〕 ○学び続ける教職員
○教育的愛情をもち、生徒に寄り添う教職員
○誠実かつ迅速に行動し、信頼される教職員

2 経営方針

- ①教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進（創造・協働・意思疎通）
- ②「学ぶ意欲と向上心をもつ生徒」を育むための、授業の改善と充実
- ③「心身ともにたくましい生徒」を育むための、健康（体力・保健・食育・安全）の増進
- ④「自他のよさを認め合える生徒」を育むための、人権教育と道徳教育の推進
- ⑤安全で安心な学びの場づくりと主体的に命を守る安全教育の推進
- ⑥地域とともにある学校づくり（小中連携、中高一貫教育、キャリア教育、へき地教育等）の推進

3 本年度の重点施策

- ①教職員の学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進
・教職員の使命を自覚した勤務規律の確保とともに、同僚性を高めた組織力と専門性の向上
【沼田市教志塾「言向和平」】
・業務の効率化や労働時間の適正化に努め、働きがいのある職場環境づくりを推進
- ②「学ぶ意欲と向上心をもつ生徒」を育むための授業の改善と充実
・確かな学力の定着を目指した活動のねらいの明確化と、主体的・対話的で深い学びの促進
・生徒の実態を踏まえた指導方法や指導体制の工夫・改善と家庭学習の充実
- ③「心身ともにたくましい生徒」を育むための、健康の増進
・楽しさを体験できる教科体育の工夫・改善と、家庭や地域との連携による適切な部活動の推進（教育部活）
・食に関する正しい知識や習慣を身に付けられるよう、組織的な食育に関する指導の実施
- ④「自他のよさを認め合える生徒」を育むための、人権教育と道徳教育の推進
・どの生徒にも温かい雰囲気を受け入れる思いやりのある学級づくりと個に応じた多様な居場所の確保
・交流活動の充実を図り、教育活動全体を通じたやさしさと思いやりにあふれた豊かな心の育成
・生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性を伸ばし、社会的資質・能力の発達を支える生徒指導による自己指導能力の育成
・生徒の主体性をいかす生徒会活動と学級活動による自律性の育成
- ⑤安全で安心な学びの場づくりと主体的に命を守る安全教育の推進
・教職員の危機管理意識の維持高揚と危機管理に応じた家庭・地域・関係機関等との連携
【セイフティ沼田】
・避難訓練や交通安全教室を通じて、主体的に安全を確保するための判断力や実践力の育成
- ⑥地域とともにある学校づくりの推進
・学校運営協議会との連携、学校情報の積極的な発信と地域教育資源の活用、生徒の地域貢献活動の実践、地域の実情に応じた役割分担と連携・協働の推進
・探究的な学習（総合的な学習の時間・特別活動等）の実践による、郷土愛、自己有用感の育成
【ぬまた未来創造学】

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

自ら学び、共に学び合う生徒の育成

～互いに学びを深める意見交流を通して～

生徒の実態との関わり

- ・意見交流の場で考えの共有はできるが、お互いに考えを広げたり、深めたりするまでには至っていない。
- ・自分の意見を述べることに抵抗のある生徒が若干名いる。

指導の在り方との関わり

- ・意見交流に必要感があり、学びの広がりや深まりにつながっていることを生徒が実感できるように、生徒が自分の考えをまとめ直すことができる授業構想を行う。
- ・自分の考えの根拠を示したり、相手に根拠を求めたりすることができるような意見交流の場を設定する。
- ・一人一人が自分事として考えたいと思う課題や、自由に意見を交流する場面の設定を工夫する。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

- ・自らの見方・考え方を整理し、他者の意見を尊重しながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ①単元を通して目指す生徒像を明確にし、生徒と共有する。
- ②他者の意見を聞きたくなったり、自分の考えを述べたくなったりする問いや課題を設定する。
- ③疑問を投げかけたり、相手の意見をふまえた返答をしたりするなど、生徒同士で深まりのある意見交流になるように支援する。
- ④意見交流をもとに、自分の考えを修正したり深めたりする時間を確保し、自らの学びの広がりや深まりを実感できるようにする。

3 研修計画

4 研修の成果と課題

○成果

- ・目指す生徒像を明確にし、生徒と共有したことで、生徒が活動の目的を理解し、ゴールを意識しながら主体的に取り組む姿が見られた。
- ・生徒自身が意見や考えをもち、根拠を示して説明したり、気付いたことをふまえてアドバイスし合ったりする姿が見られるようになった。
- ・必要感のある課題設定や、効果的な意見交流の活用について試行錯誤することで、生徒の主体性を引き出すとともに、教師間でも授業改善への意識が高まった。

○課題と課題解決に向けての今後の取組

- ・意見交流に必要な知識が定着していない生徒や、意見がもてず受け身になってしまう生徒も一部いるため、意見交流に向かうまでの授業の組み立てや、授業中の支援の工夫が必要である。
- ・ペアなどの少人数での意見交流はできるようになってきたが、より多くの人を巻き込んだパス回し型の意見交流にならず教師の関わりが多くなってしまいう傾向がある。生徒が「もっといろんな意見を聞きたい」と思うような課題設定を工夫することが求められる。

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 ・明らかになったこと]
4.9	研修主題の提案・検討 研修計画と内容の確認	○本年度の校内研修の方向性について確認する。 ・前年度の成果と課題を共有し、今年度の研修主題・副題について共通理解を図った。
通年	授 教員同士の学び合い	○授業、短学活、集会等の様子を（短時間でも）参観し合い、自身の実践に生かす。必要に応じて振り返りやアドバイスをし合う。
5.13	共通実践する手立ての検討 資質向上	○共通実践する手立てについて協議する。 ・生徒同士で意見交流が深まるような支援の方法を考えていくことを共通理解した。
6.3	授 指導主事訪問 A 授業実践、授業研究会	・考えるため技法を取り入れたり、話し合う視点を示したりする。 ・生徒の考えをつないだり、新たな視点を示したりするなど、教師が適切な働きかけをする。 ・振り返りを通して、生徒も教師も変容を実感できるようにする。
7.8	授 一人一授業、授業実践① 授業研究会（小林夏音 教諭）	○「心情バロメーター」や話型の提示は、互いに学びを深める意見交流の手立てとして有効だったか。 ・思考を可視化し、意見を吸い上げて問い返したり、班内にとどまらず自由な席移動を認めたりすることで、他者の意見を受けて、自分の意見を深めることにつながるのではないかな。
9.2	授 一人一授業、授業実践② 授業研究会（畔上 教諭）	○モデルの操作を取り入れることは、遺伝子の受け継がれ方について考えを深める意見交流の手立てとして有効だったか。 ・モデルの操作により、ペアで試行錯誤しながら意見交流を深めることができた。パス回し型の意見交流を志向するために、ペア活動を全体に広げていく手立ても必要ではなかったか。 ・めあてを明確に提示して目指す生徒像を共有することで、生徒はねらいを意識して学習課題に取り組むことができ、意見交流がより深まるのではないかな。
10.15	授 一人一授業、授業実践③ 授業研究会（佐鳥 教諭）	○中国に関わる 5つの資料を提示して多面的・多角的な視点を与えたことは、他の意見を聞きたくなったり、自分の考えを伝えたいとなったりする意見交流のための手立てとして有効だったか。 ・生徒ごとに異なる資料を読み取らせることで、意見交流により必要感をもたせられたのではないかな。 ・生徒が個人で考えをめぐらせたり、意見交流をより深めたりする時間を十分に確保できるように、内容を精選できるとよかった。
10.21	指 指導案検討会 I （指導主事訪問 B）	○「互いに学びを深める意見交流」によってねらいに迫れる授業となっているか。 ・生徒が授業の見通しをもつことができ、活動への意欲が高まるように、つかみの発問の工夫や、生徒の反応を十分に予想した上での教師の切り返しを準備しておくことが必要ではないかな。
11.11	指 指導案検討会 II （指導主事訪問 B）	○前回の検討会を踏まえた修正点を中心に協議する。 ・生徒が活動の見通しをもって活動し、ねらいに迫ることができるように、意識すべき視点や根拠を示すことの重要性をおさえるための指導が必要ではないかな。
11.26	授 指導主事訪問 B 授業実践④ 授業研究会（荒井 教諭）	○情景描写の効果を話し合う活動を取り入れたことは、主人公の心情やその変化をより深く捉えさせるために有効だったか。 ・意見交流の目的を明確にしたことや、ワークシートを工夫したことで、生徒がゴールに向かって主体的に取り組んでいた。

		・活動の状況によっては、意見をまとめる際の文型を提示することで、文の言い回しにとらわれず、意見を深めることに集中できたのではないか。 ・導入場面で、生徒全員が自分事として課題を捉え、考えたいくなるような発問や問い返しがあるとよかった。
1.20	今年度の研修のまとめ	○今年度の校内研修の振り返り ・振り返りアンケートを実施し、研修の成果と課題を明確にした。
2.17	次年度の研修に向けて	○次年度の研修の方向性について協議する。
3.17	次年度の研修に向けて	○次年度の研修の方向性について協議する。

※資質向上研修

月 日	区分	講師（担当）	内容
5.13	アレルギー講習会	養護教諭	・エピペンの使い方の確認及び演習
5.13	服務に関する研修	校長	・教職員の不祥事防止に向けた研修プログラム
6.17	学力向上研修	学力向上 Co	・学力向上に向けて、各教科担当が見取った生徒の実態や今後の方針、自教科で活かせるような手立てについて共通理解を図った。
7.16	特別支援教育に関する講話	利根教育事務所 特別支援教育専門 相談員 大谷 幸雄氏	・生徒の実態を把握し、授業中や学校生活で行うべき支援や生徒理解の心構えについて共通理解を図った。
10.15	服務に関する研修	3 学年職員	・事例演習「個人情報への取り扱い」
11.11	服務に関する研修	1 学年職員	・事例演習「交通事故の防止」
12.16	学力向上研修	学力向上 Co	・「確かな学力」の保証に向けた授業改善の視点を共有した。
12.16	服務に関する研修	2 学年職員	・事例演習「飲酒運転・危険運転の防止」 ・2 学期の振り返り及び次学期に向けた改善策
1.20	服務に関する研修	校長	・「規律確保行動計画チェックリスト」実施

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	林 崇 夫	教 諭	小 林 千 晴
教 頭	小 林 直 也	〃	片 野 由紀子
教 諭	井 上 幸 大	養護教諭	武 井 美 枝
〃	佐 鳥 悠 平	事務主事	保 坂 洋 介
〃	畔 上 峻 也	栄養教諭	高 橋 里 穂
〃	小 林 夏 音	非常勤講師	池 田 実 穂
〃	荒 井 珠 里	スクールカウンセラー	茂 木 理恵子
〃	古 田 島 茂	主任用務員	中 澤 玲 子

多 那 中 学 校

所 在 地 〒 3 7 8 - 0 3 1 7 沼田市利根町多那 7 3 2 番地
電話番号 0 2 7 8 - 5 3 - 2 6 9 8 F A X 5 3 - 3 1 9 9
校 長 名 宮田 好子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【基本目標】◎多那を愛し、未来をきりひらく子

【具体目標】○学び続ける生徒(知) ○思いやりのある生徒(徳) ○たくましい生徒(体)

2 経営方針

- (1) 経営目標 全職員が使命感をもち、小・中学校の枠を越え、感謝と奉仕の心を大切にしながら協働し合える職員集団(チーム多那)
- (2) 目指す学校像 とともに学び、考え、助け合い、高め合う多那校(チーム多那)
- (3) 目指す教師像 小・中学校の枠を越え、感謝、使命感と奉仕の心をもち、互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師

3 本年度の重点施策

(1) 確かな学力の向上

- ① 小中の学びの連続性を意識した学習指導を実施【幼小中連携】
- ② 「わかる」授業の実践(90%以上の生徒が分かる)
- ③ 見方、考え方を働かせる、課題(問題)解決型学習過程・探究的学習過程への授業改善【わくわくスクール沼田】
- ④ めあて、見通し、振り返りを通した成長の自覚
- ⑤ 思考・表現を支える効果的な I C T の活用

(2) 豊かな人間性の育成

- ① 信頼関係を基盤にした生徒指導
- ② 道徳教育、人権教育の推進【児童生徒の命を守り、育てる教育】
- ③ 沼田(多那)大好きふるさと学習の充実【ぬまた未来創造学の推進】
- ④ 家庭と連携した読書活動の推進【家族で本を読みましょう】
- ⑤ 地域の教育力の活用(コミュニティー・スクールの充実)

(3) 健康の増進と体力の向上

- ① 学校保健・食育の推進
- ② 共に切磋琢磨する体育的活動を充実と運動好きな生徒の育成
- ③ 体育授業等での運動量の確保
- ④ 部活動の充実【教育部活】

(4) 組織マネジメントの充実

- ① 実態を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施・評価
- ② P D C A サイクルによる教育活動の充実

③ 小中連携一貫教育の促進と充実

Ⅱ 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～ 研 修 主 題 ～

主題 「主体的・探究的に学び、考え判断したことを表現できる児童生徒の育成」
副主題 ～生活科・総合的な学習の時間を中心とした、探究的な学習の実践を通して～

児童生徒の実態との関わり

- ・小規模校のため、少人数の対話や教師と児童生徒との対話が中心となり、多様な視点から物事を考えることが少ない。
- ・協働的な学びの場面で、考えの根拠を説明したり、相手に分かるように質問に答えたりすることに課題がみられるので、身に付けた知識や技能を活用し、相手意識をもって自分の考えを伝え、課題を解決できるようにする。

指導の在り方との関わり

- ・課題解決に向かえるよう、児童生徒との対話だけでなく、地域の方や先哲の考えを手がかりに物事を考え、主体的・探究的な学びを充実させる。
- ・他教科と関連させたり、児童生徒に必要な感のある課題を設定したりすることで、自律した学習を促すようにする。また、協働して課題を解決しようとする学習活動や表現活動を促すようにする。



2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童生徒像

【生活科】身近な生活から気づいたことを、自分の思いや考えをもとに表現することができる児童

【中学年】地域社会との関わりから課題を設定し、体験活動などから学んだことを生かし、表現することができる児童

【高学年】地域社会との関わりから課題を設定し、体験活動などから学んだことを生かし、相手意識をもってまとめ表現することができる児童

【中学生】人、環境、社会などの関わりの中で、主体的に課題を見つけ、情報を収集しながら課題解決に向けて自分の考えや意見をまとめ表現し合い、深め合うことができる生徒

(2) 共通実践する手立て

- ・探究のプロセス(課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ)を基本とした単元構想を工夫する。
- ・社会で働く資質・能力を育成するために、課題解決に必要な知識及び技能を身につけさせる。
- ・教科横断的な内容となっているか、探究的な学習過程となっているか、小中の学びの連続性はあるか等の視点から全体計画や単元計画を見直す。



3 研修計画・経過報告 裏面



4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・探究のプロセスを共通理解し、単元構想を考えて計画を立てたことにより、児童生徒が単元全体の見通しをもち、学習することができた。
- ・体験活動や交流活動を計画的に学習活動に取り入れたことは、課題設定や課題解決の場面において、子どもの思考を深める手だてとなり効果的であった。

○課題

- ・多様な考えを持たせるために、教師がどのように働きかけをしていくかを検討する必要がある。
- ・主体的に取り組むための必要感のある課題をどのように設定していったらよいかをさらに考える必要がある。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・地域の特性を生かした「総合的な学習の時間」について、地域の思いや願いを児童生徒が共有し自ら解決したくなるような学習課題・学習活動にはどんな題材があるか考える。
- ・児童生徒の個人テーマに関するまとめや提案を発信する方法や手段を検討していく。

3 研修計画・経過報告(全：全体会 班：班別協議 校：校種別部会 指：指導案検討)

月 日	研修の内容	(○研修の視点 ・ 明らかになったこと)
4/15(月)	全① ・ 研修内容について ・ 指導上の工夫について	○本年度の研修主題、副主題について ・ 総合的な学習についての見通しがもてた。
4/30(火)	全② ・ むまた未来創造学について ・ 探究的な学習について 講師：学校教育課 林武史課長 星野優太指導主事	○総合的な学習の時間についての基本的な理解 ・ 課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り・改善について共通理解した。 ・ 魅力的な課題を設定する。 ・ 地域と協働して生き方を考える。
5/29(水)	多那小中指導主事訪問A	○一人1授業
6/3(月)	全③ ・ 指導主事訪問での学び	○授業実践後の情報共有
7/1(月)	全④ ・ 全体計画、年計の見直し 校① ・ 全体計画の形式等	○単元の構想、課題解決の方法 ○探究のプロセス・全体計画の見直し
8/27(火)	全⑤ ・ 授業実践計画 ・ 小1生活科 班① ・ 指 金井みち代教諭	○単元の構想、課題解決の方法 ○探究のプロセス ・ 探究の目的を持つことが大切である。
9/5(木)	班② ・ 小1生活科 ・ 授業研究会 ○探究課題 「あさがおの一生をかんさつしよう」	○単元構想について ・ 単元全体を通して、個人のめあて(課題設定)があつてよかった。 ・ 児童の気づきや思いをみんなで共有するための時間をもっとじっくりとるとよかった。
9/30(月)	全⑥ ・ 指 千明春香教諭 ・ B訪問指導案検討 ・ 中2総合 ・ 個人課題の持たせ方	○B訪問の授業について ○探究課題「多那を創る」 ・ 課題設定の場面での工夫について、事前の準備や計画がとても効果的であった。
	班③ ・ 中3総合 ・ 指 高山誠教諭 萩原圭教諭 高橋千賀子教諭	○探究課題「未来を創る」 ・ 情報の整理分析について視点が明確であった。
10/2(水)	班④ ・ 中3総合 「私たちが提案する多那の未来」 ・ 授業研究会 ○探究課題 生かそう「多那の魅力」 きりひらこう「多那の未来」	○課題設定について ・ 指導者の問いかけの工夫、学習者の意見共有する場の設定が適切であった。 ○情報の整理・分析について ・ 情報収集の視点がはっきりしていたので、生徒たちが主体的に取り組めた。
10/9(水)	班⑤ ・ 小5総合 指 渡貫文子教諭	○意見交流について ・ アドバイスを共有する場面を設定するとよい。
10/11(金)	班⑥ ・ 小5総合・ 授業研究会 「お米博士になろう」	○課題設定について ・ 体験活動をもとに課題を設定したが、探究的な

	○探究課題「お米の大切さ」	活動に結びつけるのが難しい。
10/15(火)	全⑦指導主事訪問Bに向けて	○指導案検討
10/22(火)	指導主事訪問B 全⑧・中2総合 千明春香教諭 大岩哲夫教諭 「農業で多那を活性化しよう」 ～中学2年生 僕たちの農業奮闘記～ ○探究課題 「多那を創る」	○課題設定について ・魅力のある課題を設定することが大切である。 ・単元構想がしっかりしていて、自然な流れで授業が進められた。 ○意見交流について ・生徒同士が話し合う時間を取り、話し合いの中で自分が追求したいことを考えられるとよい。
11/5(火)	班⑦・授業実践・授業研究会 ・小6総合 井上駿教諭 「知って、考えよう！多那のこと」 ○探究課題 「多那の過去・現在・未来と自分たちの生活」	○課題設定について ・事前に地域ボランティアの方から話を聞いておいたので課題設定に生かされたのがよかった。 ○意見交流について ・意見交流をしながらシンキングツールの整理ができた。
11/28(月)	班⑧・授業実践 ・中1総合 下田隆広教諭 山田哲也教諭 「福祉の視点から見る多那」 ○探究課題 「多那を知る」	○課題設定について ・総合のテーマ(課題)は、生徒にとって必要感のあるものがよい。中学生は、全校で取り組める課題など見直していくのもよいのでは。 ○意見交流について
12/4(月)	班⑨・授業研究会	・話し合いのスキルを高められるとよい。
12/11(水)	班⑨・授業実践・授業研究会 ・小3・4総合 星野智子教諭 小林昌行教諭 「りんご博士になろう」 ○探究課題 「地域の産業」	○単元の構想、課題解決の方法 ・新たな課題やりんご農家の方への質問が課題解決に役立った。
1/20(月)	全⑨・実践の振り返りとまとめ	○主体的・探究的な学びの具体的な姿の達成度 ・目指す児童・生徒像に近づいた。
2/17(月)	全⑩・次年度構想の検討	○次年度の研究内容について ・成果と課題を基に、次年度の構想を検討する。

< 職 員 一 覧 >

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	宮田 好子	教 諭	鈴木 朋華
教 頭	藤井 常夫	教 諭	大岩 哲夫
教 諭	山田 哲也	教 諭	高橋千賀子
教 諭	高山 誠	養護教諭	鈴木 梓
教 諭	萩原 圭	主幹事務長代理	星野 恵美
教 諭	千明 春香	非常勤講師	野上 沙織
教 諭	下田 隆広	〃	萩原 裕子